明治四十四年七月一日發行（毎月一回一日發行）（六月二十八日印刷納本）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

新女界

第參卷 第七號

東京 新人社 發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參卷第七號目次

◎講壇

◎過つて改むるに憚る事勿れ　安井哲
◎受苦の眞義　海老名彈正

◎慰苑

◎婦人の活氣　小此木松子
◎伊香保より　野口せい子
◎インディアンバンド　野の人
◎夏季の衛生法　小山憲佐
◎雲の枕　せい子
◎網膜の夢　田澤藤郎
◎天路のはて　大石秋華

◎家庭

◎父母より娘へ　村田勤
△「家庭に對する希望」を讀みて　深田憲治
△結婚問題　某文學博士夫人
△現今の女學生　海老名みや子
△敬愛する若い姉妹方へ　小崎千代子
△信仰は總ての要求を容れて餘あり
◎貴い疲勞　紫嵐
◎男子の自重を望む　かほる

◎隨感

◎避暑の一ヶ月は家庭教育の最好時機　海老名みや子
◎計り難き人の身の上　元良よね子
◎祈禱の力　一記者

交際場裡に文明の美花を開かるゝ紳士も奥さんも孃さんも香り深き千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

試用見本郵劵代用あれ

スワン石鹸

純白で湯水に浮き價安くて品の善いスワン石鹸は至る處の小間物、化粧品藥舗にあり　定價廿二錢

スワン石鹸日本一手販賣
東京馬喰町四丁目
山岸三之助
電話浪花一三七九三
振替口座一九九七八

七月號

婦女界

一冊十五錢　郵税一錢五厘　六冊九十錢

振替口座東京一三三五

東京神田　同文館

◎信仰に活きよ……近角常觀

◎自覺せよ若き女　内田魯庵

▲虚榮心より起りし悲惨の實例　山室軍平

▲近代思潮と若き娘の長所　海老名みや子

▲涼味は到る所に滿つ……大倉桃郎

▲訪問した時された時……笹木幸子

◎轉地と婦女の衛生……醫學士 大瀬貴明

◎初夏の小兒衛生……醫學士 豊福環

◎小説「とみくじ」……内田魯庵

◎婦女と旅行の趣味

▲岩手山と八ケ嶽……野口幽香子

▲赤毛布式の旅行……目賀田逸子

▲壯快なりし富士登山……日向きん子

▲懐かしい相州三崎……竹越竹代子

▲娘の爲に選んだ旅行方法　加納諡子

▲富士山を紹介したい……野中千代子

▲旅行は活動的である……下田次郎

◎顔容と髪の結びぶり……伊賀とら

▲夏向の香水と使用法……佐々木玄兵衛

▲お茶を甘く飲ませるには　山本嘉兵衛

▼懸賞新題　一等五圓以下數十名＝懸賞、和歌、俳句、繪畫、習字、一等三圓以下數等

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●**トラホーム**●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

救世軍大佐心得 山室軍平著

青年への警告

定價 貳拾錢
郵税 貳錢

帝國新聞評

青年も、大人も讀む可き書なり。著者の巧みなる演説振をも見るべし。『如何にして情慾に克つ可きか』の一篇は、是非、當代の青年に勸めたし。

靈南坂教會牧師 小崎弘道著

基督教と我國體

定價 六錢
郵税 貳錢

簡潔且巧みに國家的關係を述べたる小冊子にして内外人より非常の好評を受け、某宣教師は第三版全部を買占められたり。

住谷天來著

孔子及孔子教

定價 五拾錢
郵税 四錢

我邦の孔子論は、汗牛も啻ならざれど、本書の如く觀察精緻にて、孔子の眞相を暴露せるものは蓋し空前ならむ。本書は即ち儒教史中の白眉と云ふも溢美にあらず。

大阪教會牧師 宮川經輝著

人生の慰安

定價 壹圓
郵税 八錢

著者が最近二箇年に亘る説教中より、特に人生問題及び其解決に必要なるもの廿五篇を收む。

發兌 東京京橋尾張町 振替東京五五三 警醒社書店 △本郷區△春木町 仝支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羽仁もと子主筆

婦人之友

七月一日發行　第二號　一冊金十五錢（郵税一錢五厘）　六冊前金九十錢（郵税共）　十二冊一圓七十五錢（郵税共）

●理想の生活（花子の卷）愈佳境に入る……羽仁もと子

●女（戒めらるゝ女の虚榮心）……文學博士三宅雄二郎

●夫婦論（新婚時代の生活法）……羽仁もと子

◎中流の家具費は如何にすべきか

◎赤坊を泣かせずに育てる秘訣

◎かうすれば子供に好かれます（女中訓）

◎着物の色どりの研究

◎五十錢で出來る夏の肩掛

◎僅かの時間で上手に出來る洗濯法

◎成功した贈物の實例

◎器用に座敷を飾るには

◎和へ物の拵へ方　鯛めしの炊き方

◎七月の惣菜（卅日分の献立と料理法）

▲樂天生活の工夫……佐々夫人

▲男女交際奬勵論……長井博士

▲旅行中の見聞……志賀重昂

▲東京生活と地方生活……後藤宙外

▲衣に厚く食に薄し……北尾夫人

▲主婦としての一日……加藤夫人

▲父母のをしへ……羽仁もと子

▲新案の家庭遊戲……松浦政泰

▲假名文字の習ひ方……星野天知

▲繪の習ひ方……大下藤次郎

▲家政問答（質問隨意）……羽仁もと子

▲修養カード（七月分）……

畫報（●第一歩（ミレイ筆）●若き母親の一日●小さき花壇●誕生日の集り●夏の勤勞●子供の笑顔●子供の夏の生活●製糸のいろ〳〵●夏の盆栽●夏の農科大學農場●團扇のいろ〳〵）

▲初號四版　取揃御注文に應ず

▲東京小石川區雜司ケ谷町　振替口座東京壹壹六〇〇　婦人之友社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第參卷第七號

過ちて改むるに憚ること勿れ

安井哲

人間の最價のある所は向上の精神であります。若吾々が現在の狀態に滿足して何の修養をも積みませんならば、不知不識精神的墮落をして、人間らしい人間となつて居る事が出來なくなります。かゝる有樣になりますと、自分を常に偉い者の樣に考へるか。又は缺點は充分に自覺して居ながらも、尙他人の前には偉そうに見せたいと力める樣になります。かうなりますと、知らぬ事でも知つた樣に見せたくなり、過つても直に辯解する樣になり、他人の意見が自分のに勝つて居ても、快く之れに贊成せぬか、又は心には贊成しても、口には自分の意見の誤つて居るといふ事を公言するのを恥ぢ、時には又他人の說を自分の言葉に言ひ直して平然たる樣な卑劣な行爲をも

する樣になります。是等は皆向上心がない爲めに起る結果で、自分のみはかゝる負惜みに依つて滿足を得ましても、他人は其人に對して敬意を表する事が出來なくなります。

一體吾々は誰でも名譽心といふ者を有つて居りますから、自分を他人より優れて見せたいと望むのは自然でありますけれども、退いて考へて見ます時には誰より優れたいのであるかといふ問題が起ります、即成人が兒童より偉くても何の自慢にもならず、又無教育の者より少し位多くの文字を知つて居るからとて餘り偉くもありません。其故自分の標準が高ければ高い程、何時まで勉強しても自分を淺學に感じ、又如何に修養しても自分を不完全に感ずるのであります。然るに私共は動もすると、自分の不足を自覺する苦痛を免れんとし、又は其不足を補ふために奮勵するの勇氣に乏しくて、成るべく自分の缺點を考へぬ樣に力め、不知不識に負惜が強くなるか、又は己れより優れた人に接近せぬ樣な卑劣な人間となつてしまひます。

そこで吾々の一番敬服すべき人は、常に自分の短所を自覺して居り、而も單に自覺して居るばかりでなく、熱心に向上發達したいと希望もし、又努力もするといふ狀態にある人で、吾缺點を知るは實に向上の初めであると申して差支御座いません。私共は生徒として小學校や女學校に通學致して居ます中には、先生は實に偉い御方であると信じ、自分の無知淺學な事を自覺して居りますが、次第に年齡も加はり年少者が自分の周圍に殖えてまゐりますと、常に自分の方が他人よりも優つて居るかの感じを有つ樣になり、修養も忘れ勉學も怠る樣になつてしまひますので、終には是等年少者に劣る樣になつてしまひます。人間は年と共に經驗も増し、研究も進み、修養も積んで偉くなるべき筈でありますのに、學校でも卒業致しますと次第に退歩し初め「今ではもう何もかも皆忘れてしまひました」といふ樣になるのは、或は謙遜らしくも聞えますが、一方には無氣力に感

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せしむる者であります。

吾々は誰の爲めに修養するのでありませうか、申すまでもなく自分の爲めにするので、先生の爲めにするのではありません。夫故假令先生の許を離れても、何の刺戟がなくとも怠らず自分を向上させて、成るべく完全に近い者になりたいと、徐々に進み行くのは誠に美くしい事であります。併我々人間は刺戟がないと奮勵せぬといふ弱點を有つて居り、又先生がないと進歩せぬといふ事實もありますので、成るべくは一生涯我々の先生となるべき方を有つて居るのが得策であります。其方は人々に依つて違ひませうが、一の欠點も有たぬ最高最善の方卽神は私共に取つては終生の師であります。此方の前には私共は常に不完全を自覺し、仰ぎ見て之れに近づかんと努力致します時には、無限の助を感ずる實に有力なる先生であります。かくの如くに自分の短所を常に意識して居ますと、自然に吾周圍の人々に對しても、其勝れた點を尊敬する様になり、知らざる事を知らずとして之れを知る者に問ひ、吾過ちを過ちとして衆人の前に悔ゆるに何の憚る所もない様になります。向上心の强い人は之れで始めて滿足を感ずるので、負惜しみする人の心狀とは大に其趣を異にして居ます。私は曾て某新聞のはがき集で「神に依賴する人は自分の弱い事を證明して居る者で、無神論者こそ却つて其强さを表はす者である」といふ意味の投書を見た事がありますが、卽其通りで我々は眞に吾弱きを感ずる者であります。而して我々は其弱さを自覺するといふ事を以て決して耻と感じません。唯弱さを感じて自暴自棄するのを深く耻づるのであります。要するに我々は人間でありますから完全でない事は確であり、苟くも缺點があるとすれば五十歩百歩で、例へば甲は乙に勝つて居ても、丙には劣り、丙は又甲に勝つて居ても、丁には劣るといふ類でありませう。其故に自分の短所を他人に知らるゝ事は決して耻ではなく、自身に之れを覺らぬか、又は覺つても之れを飾らんとするのが却つて耻づかし

い事であります。我々の實驗に依れば、偉い人程謙遜で、而も謙遜であるといふ事を自覺せられぬ樣に見えます。之れに反して修養も足らず、學問も深くない人程自分を偉い者の樣に考へます。其故に心の眼を開くのが進歩の第一階段で、我以外の者が明に見え、其價が公平に判斷し得る樣になれば、當然自分以上の者を認め得るに至るのであります。次には知德共に不完全な狀態から、斷えず前進向上しやうとする熱心が大切で、之れさへあれば常に心を虚くして他に學び、喜んで缺點を正さうと心懸くる樣になるのであります。

淨心錄（一）

谷津直秀

湯釜から居を轉じまして淨心寺の地内に來ましたから表題もかく更へることゝ致しました

（一）オランダの畫家ヤン、スデーンは有名なジョンル（田舍などの日常生活等）の畫家ですが、梟の眼鏡をかけてゐる畫の賛に、「目の視へぬ梟に眼鏡何の役もなし」との意味の句を蘭語でかきました。吾人の靈眼の豁然たらざる間は、種々の人工的形容は何の役にもたゝぬものでしよう。

（二）エッカーマンがゲーテに、ゲーテの肖像を見て之は世の中の苦勞を嘗めた人の相であると云ひましたら、ゲーテは之をとがめて「君之れは奮鬪に勝つた相と云つてくれ玉へ」。

（三）世界で第一の基督教を信じた帝王であるコンスタンチン大王が、或る日のこと、多くの名士の立像を眺めてゐられたとき、近侍のものに「朕の像を造るときは跪てゐるものにしてほしい朕の今日あるは祈の御陰である」

（四）カーライルがダーウヰンから、人類が猿の如きものから進化して來たと云ふ話を聞いたときに云つた「如何にもさもあるべし、然し其より猶緊要な問題は、如何にせば是から人が猿になるのを防ぐことが出來るかではないか」。

（五）ヴイクトー、ユーゴーが或る宴會の席で右隣に座したフランソヤ、コッペーに向ひ、二人の詩人が共に健康を祝したらどうだと云ふと、コッペーは「いや先生こゝに一人より詩人は居りません」ユーゴーは笑ひながら「夫では私は詩人の仲間入りが出來ないのですか」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

受苦の眞義

海老名彈正

△人は苦痛を怎う見る乎

此の世に苦の有ることは何人も實驗する所であつて、如何にせば之れより免かるゝことを得るかとは誰の心にも往來する所である。殊に此の工夫は東洋に於ける昔からの一大問題である。彼の釋尊が此の問題を最も適切に解決したとは、佛教の據つて立つ所である。亦我が基督教に於ても、此の問題は昔からの宿題であるが、今に悉く解決せられたとはいはれない。併し之れは多くのクリスチャンが日々實驗する所であつて、彼等は亦此の苦痛の裡に貴き希望の喜を堪へて來て居る。

昔から此の受苦といふことには大體二樣の解釋がある。一は即ち人の受くる苦痛は過去の罪業である、過去の生涯に於て斯る苦を受くべき種を蒔いてゐるのである、即ち是が因となつて、今は其果を受けつゝあるとする。故に受苦は怎うも致し方はない、遠き過去よりの深い因緣であるから、諦める外は無い。此の考へ方は頗る苦しい仕方と言はねばならぬ。縱令其が道理であるとしても、悟であるとしても、隨分受取にくい譯である。自分自身が犯した罪の報なら致方ないのであるが、生れもせぬ以前に、夢にも

知らぬ遠き昔の時代に、蒔いたといふ罪の結果をこの自分が受けるとは如何にも受け取れない次第である。恰も人の犯した惡の報を自分で苦しむ樣な宿命に遭ふとは、如何にも失望の生涯といはねばならぬ。今一つの解釋はユダヤに起つたものである。卽ち人間の先祖が惡い事神の旨に逆き罪を犯したから、遠き子々孫々に至るまでも凡て其祟りを受けるとするのである。此の方は少し解り易い、祖先と自分とは離れぬ關係が有る。祖先の善因は子孫に善果を齎らして來る。遠き祖先の功勞に由りて今日勳爵を保つ人もあれば、又祖先の勤勞に由りて大した財産を其まゝに讓らるゝ人もある。かゝる事柄は一般に怪しみもしない。故に祖先の罪は子孫の苦となつて報ひきたるといふは、自づから理屈の存するのである併し乍ら吾々基督者には怎うしてもこの理屈は受け取れない。天地の神は吾々の恩愛限りなき天の父である。此の尊い神が人類の祖先が犯した罪の爲めに、永久その子々孫々を苦痛の世界に沈め給ふとは、到底考へられない。以上二樣の解釋は個人主義が權威を逞うする現代の人には分らない。

△苦痛は何を意味する乎

然らば此の苦痛は怎う解釋すればよからう乎。一般世間の考によれば世の中には幸もあれば不幸もある、禍福は糾へる繩の如しで、幸福の裏には禍がある、又災難を通り拔けると仕合に成るとする。是も亦一種の運命說である。滿れば虧くる世の慣、圓き十五夜の月は段々と虧けて行く、例へば治極まつて亂起り、亂極まつて治興るが如く、恰も車の輪の廻つては復元に返へるといふ樣なものであるとする。だから幸福が來れば喜び禍が來れば悲しむ。此の一喜一憂は徒な事である。凡て此等の喜憂を超越したる悟に入れよといふ人もある。併し此く超越したる人生は無に歸するより外はない、何も無い世界に入らねば斯る超越は不可能である。又一方には此の世には苦痛もあるが、幸福もある、し

かも樂しみは七分で、苦しみは三分である。人生はこの七分の幸福を完うするが第一であると主張する樂天家もある。又或る人は禍を八分となし、その餘りに多大なるをかこち、此の世は涙の世なりとして、死亡に至るまで悲觀する厭世家もある。

所が吾々基督者は如何に苦痛を解釋すべきであらう乎。吾々の日々望み希ふ所のものは靈の新天地である。肉體の生活以上に認めらるゝ深い〳〵世界である、我が基督に依りて最も明かに示されたる神の國、天國である。不完全なる現世に換へて完全なる圓滿なる靈の世界である。禍と幸福とが交々來るといふが如き相對の世界でなくして、永遠から永遠に亘る自由の國である。而も吾々の自覺によりてあこがるゝ如實の世界である。是が基督者に取りて竟極の世界である。徒に日を照らし雨を降らす力の神に非ずして、吾々の心の奧底に其限りなき仁慈の愛を示す精神的實在、人格者の姿を認むる神である。斯る世界、此る神を實驗する吾々に取つては、此の世の苦痛に於て苦しき乍らも深い意味のある、奧ゆかしい啓示を確證するのである。此の苦痛には今一つ先きの世界が見える、吾々の永遠に到るべき道が見える。神が見える。今過ぐる此の苦しみは天の父に到る準備である。永遠の神の國を生む苦しみである。基督が爾曹には非常なる苦痛が來る、恰も女が子を産む如き苦痛が來る、併し女がその産み落したる玉の如き子を見てこの苦痛を忘るゝ如く、爾曹の苦痛は忽ちにして喜の世界と成る、而して其喜は何人も奪ふことは出來ぬと教へられた。即ちパウロが艱難にも喜をなせりと申したのは此の事である。

吾儕には苦が殖える

此の如く人生の苦痛を嘗め、疾病災難又失敗の鞭の下に、神の國に入るべき資格を練へ上げらるゝのである。即ち天國に入る人格を作り上げる爲めである。是は確かに基督者の深い實驗、信念である。一面には恩愛限りなき天の父を仰ぎ乍ら、俯して地上

の苦痛を忍びつゝ歩むことを歇めない態度こそ、眞に偉き基督者の有様である。更らに深く考へると基督者は世間の人よりも苦痛を多く有する。日々に苦痛が増しつゝある。人格が磨かるれば、研かるゝ程心の狀態が微妙になるから苦痛は一層殖えて來る。昔の武士は如何せには苦痛なくして其妻子を捨つることが出來る乎、如何にせば決別の悲哀に泣かずして雄々して死に就くことが出來るかといふことを修養したのである。併しクリスチャンはそんな修養はせぬ。何處までも自分が生きて、自分で背負て行かんことを心懸ける。敵すらも愛するといふ心懸に怎うして無責任な行動が出來やう。又怎うして他人の苦痛を見て對岸の火事と濟ますことが出來やう。己の如く隣人を愛する修養をする吾々には苦痛は日々に増すばかりである。併し茲には愈々深い意味が生じて來る。

例へば山川草木には苦痛は無い。それから鳥獸になると稍苦しみを覺える。而して人には更らに大なる苦痛の感がある。故に此の一面から見れば、苦痛の有無大小は進歩の狀態である。故に基督者に苦痛の多いことには意味が有る。實に吾々には堪ゆることの出來ない様な苦痛の重が身を壓して來る樣に思ふことがある。併し眼を開けば天に恩愛限りなき慈眼が我が爲す所を見て居らつしやる。同情の光明が我を照して來る。天地を貫ぬく永劫の生きた愛が沁々と心の隅に應へる。確かに靈の世界光明界が窺はれるのである。

彼の維新の當時日本を背負はんとして立つた青年が澤山ある。彼等は夫々非常なる苦痛を嘗めた。新島氏の如きは所謂毛唐人に蹴られ乍ら、無念の涙を呑み乍ら、堪へ切れぬ苦痛を忍びつゝ賤しい火夫にまで成つて心を壞いた。畢竟何の爲めである乎。彼には新日本といふ希望があつたからである。パウロが吾儕望によりて救はると云つた其希望が、吾々をして苦痛の裡にも失望せしめず、自暴自棄せしめず、努力して努力して進ましむる所以である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△貴き實驗の言葉である

然し乍ら吾々の苦痛は時として餘りに大である。暗雲途を掩ひ、嶮岨前に横はる、進まんとして展けず、退かんとして通せず、身是に谷まる悲慘窮地に陷ることなしとせず。而も此の時光明を與ふる者あらば如何。例へば新島氏の如き人の知らざる苦痛に心を掻き擾る折しも、其父より其母より、御國の爲だ、確かりやつて呉れといふ音信が有つたとすれば、果たして怎うであらう。此の同情は如何ばかりの勇氣を與へることであらう、慰を與へることであらう。人生意氣に感ず功名復誰か論せん乎である。基督者には此の境地が有る。死も敢て辭せぬ堅き據り所がある。我が神は遠き神ではない、又死して後の神でない。今現在此の世の苦痛に泣きつゝ、父よと仰ぐ慈愛の神である。求むれば應へ給ふ愛の神である。我が苦しむ心を汲み給ふ神である。我儕の健氣に戰ふ姿を見て喜び給ふ神である。

嘗て或る友人からこんな事を聞いたことがある。其友人が或る監獄の傍を通つて居たら二人の子供が遊び戯れて居た。處が最早日暮間近と成つて居るので、其二人の子供は相携へて家へ歸らうと云ひ出した、何處へ歸るのかと見てゐるとさも自分の家の樣にして其監獄の門を潜つて這入つて行つた。不思議に思つて尋ねて見ると、彼等には彼處の監房の内に母がゐるのであつた。實に母の愛のある所には監房もホームである。世には高貴の内に生れ乍ら、思ふ樣にも其母上に又其父上に親しむことの出來ない方々がある。此の人々は彼の裏店の小さい家に生れて、朝に夕に母に縋ることが出來る子供と、比べて、果たして幸福な生涯であると言へやう乎。吾々には此の尊い靈界のホームが有る。此の世に非常な苦痛に遭ふとも、天に歸へれば慈愛深き父なる神が坐まし給ふ。是れ非常なる慰ではない乎、又大なる力ではない乎。我が神ありてこそ吾儕如何なる悲慘にも堪へ得るのではない乎。天の父の恩愛限りなきを自覺

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

してこそ、荒浪猛ぶ危ふき世をも心安く渡り行くことが出來るのではない乎。我が心我が神に通よへばこそ、痛き笞の下に恩愛を知るのではない乎。實に斯る悲しき事のあればこそ人の世も生き甲斐のあることを知るのである。吾儕の受くる苦痛の爲めに神の愛は彌々益々深くなり、吾々の人格が研き上げらるゝのである。艱難汝を玉にするとは世に尊き實驗の言葉である。

△我行方は永遠のホーム

此く見れば神の愛を感ずる爲めには求めても苦痛に居らねばならぬ樣にも思はれる。併し苦痛の無い人には夫でよい、夫でも神の愛は充分に示されてある。特に求めて苦痛を買ふ必要はない。併し眞に神の子として、眞面目なる人として世を送る爲めには恐らく苦痛といふことは免かれぬであらう。眞劍の事業懸命の研究、凡て全力を濺がんとする裏には多く忍び難き苦痛が伴ふものである。又人には災難が起る。病氣にも罹る、愛兒を失ふこともある父を亡くした爲めに學資に窮する學生もある。或は失戀の結果人には言ひ知られぬ悲痛を包まねばならぬこともある。實に思ひ返へせば人生は又しても悲慘な世界である。啻に自己一人の苦痛のみならず、兄弟も苦きを嘗めてゐる、友人も是に悶えてゐる、父母にも苦勞がある、息子娘も胸を擘ちつゝある。實に何といふ慘な世であらう。彼を思ひ之を想ふと時として人生には意味の解らぬ深い所に迷ひ込んで了ふことがある。我が教會員であつた彼の魚住影雄君の如きは、あの若い青春の流るゝ血の中に、一種何とも云へぬ悲痛を堪へて死んで了つた。恐らく彼自ら感じたる苦痛の負傷は他人は餘り多く知り得なかつたであらう。彼には母もあつた、兄もあつた、學資もあつた、而も世の悲慘に泣いて／＼そして終に逝つて了つた。將に筆を負ふて文壇に立つべくして、而も唯自分の心の裏に書き錄された悲哀を其儘に葬り去つて了つた。實に考へて見ると意味が解らぬ。併

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し彼の人格は爲めに崇高を加へてゐた。死んで逝く彼自らに取つては、彼の嘗め盡した苦痛には確かに大なる意味が有つたのである。最早死するとも憾はない。曠い天地が展けて居る。是れ我が基督の給ふ賜物である。基督者の實驗は正に此の所に在る。實に我儕の進まんとする險しき路は完全に到る道程である。愈々益々神の愛を知らんとする努力がある。更らに思ひ見れば我儕の行方には樂しき永遠のホームが在る唯此の一事、我儕の希望であり、生命であり、救である。而して終に神の御手にて我が苦しみの涙は拭はるゝ時が來る。

文月やひさりはほしき嫗の子　其角

蟬なくや行人たゆる橋柱　蕪村

ベビーの教義問答

齋木仙醉譯

「愛するベビーよ、何處よりか來れる。」
「到處より此處に。」
「さる奇き眼を何處にて得しや。」
「通り來る時、空より。」
「その小さき涙を何處にて得しや。」
「此處に來て俟ち居る時。」
「足よ、何處よりか來つる、可憐の者よ。」
「ケルビンの翼と同じ箱より。」
「その眞珠なす耳を何處より得しや。」
「神言ひ給ひぬ、かくてそを聞んさて生れぬ。」
「總ては如何にしてかくは汝に來れりや。」
「神、我を思ひ給ひぬ、―かくて我成りぬ。」
「されど如何にして汝は我等には來つる、愛らしの者よ。」
神、汝等を思ひ給ひ、ぬかくて我は此處に來ぬ。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

想苑

婦人の活氣

小此木松子

若し之が如何なる仕事をなすにつけても、悉く私共の自覺した精神から行はれましたならば、どんなに愉快であらふ、どんなに成蹟が擧つて行くだらふとは何人と雖も考へぬ人はなからふと思ひます。只に自己の爲め家のため計りでない、延いて國家にとりましても非常な利益を與へます事は、皆が承知してゐながら、何故さういふ風にしないので御座いませうか。私思ひますのに、之は吾々婦人に活氣が乏しいから起る事だと信じます。何でも一つぶつかつてやつて見ようとする元氣が缺けて居るためだと思はれます。之がために趣味がせまいとそしられたり外國婦人に比較して意氣地がないと云はれるので御座います。

△仕方なしの仕事

日常生活に於ける仕事の大半は、實際の所自覺せずしてやつて居る事が多いやうであります。例へば自分自身にとりては極めて大切な自分の職業に就いて申しましても、本當に一々其使命のある所を信じてやつて居る人が幾人あるで御座いませうか。氣が向いたからやつて見よう、いやだから今日はよそうと申す樣な、全く責ふさぎに仕事をして居る事が多いのであります。例へて申しますなら、疲れた足を引ずつて、仕方なしに歩いて行くと云ふ姿で御座います。敎へる人も習ふ者も、大抵はかうした心持で其日々々を消してまゐつて居るので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一體私共は斯る活氣を自分自身に起し得る時代に生まれて居るのみならず、新らしき活氣を外部から注入して貰ふには誠に工合のよい時代に生存して居るので御座います。之が昔の時代で御座いますならば、一般婦人は狹い範圍に閉ぢこめられて、活動がしたくとも出來ない狀態に居りましたので御座いますが、それでも昔の婦人は中々えらい事業をやつて居るので御座います。然かるに社會狀態もまるで變つて私共の活動も比較的自由な今日に於て、私共の働きが却つて昔時の婦人に及ばないものがあると云ふのは、要するに私共の生活が一體に勵みが足らぬせいであると思ふのであります。

△今日の教訓

近く私の身のまはりに起つた事で申しあげて見ませうなら、實は私は非常に多忙なる生活を送つて居る者で御座いますので、今日のやうな雨の日曜日には家にゐて本でも讀みたいと思はぬでもありませんでしたが、おすゝめにまかせて思ひ切つてまゐつて見ますと、久しぶりで此教會に入つて、遠ざかつて居りましたいろ／＼の方々にお會ひ申しますと、何となく一種新らしい力を感じ心持も愉快に晴々しくなるのであります。それに他のお二人方の御演說を承る事を得まして、多大の利益と奬勵とを得る事が出來た次第であります。欝陶しい雨の午後などを家に籠つて居りましたなら、氣分もふさがつて或は何にも出來なかつたかも知れませんので御座います。私は今日此方にあがりましたといふ事に依て澤山の愉快と利益とを得たのを大變喜ぶ者で御座いますが之と云ふも思ひ切つて皆樣の前に立たうと覺悟した結果であると思ふので御座います。

△「世の誤」

私は先達てチエスタートンの「世の誤」と云ふ著書を讀みまして御座いますが、其の論旨や說明が面白いと思ひましたから、かいつまんで其荒筋を申しあ

げて見たいと思ひます。

一體婦人は男子よりも廣き意味に於て創られ居る者である、仕立屋でも料理人でもすべて男の方が上手だ、かう云ふ手職にしても何一として男の方が上手でないものはない、夫故一藝一能の上ではとても婦人は男子にかなはないけれども、然し全體から云ふならば一通りの事は何でも女子の方がよく出來る、第二流位の處でやらせると却つて女子の方がよい、婦人は恰も棒のやうなもので、宏大な建築の場合なら格別、そうでないなら、柱の代用ともなり支えとも、其他いろ〳〵な役に立つ者である。婦人は世の中の平均調和を造るのが其使命である、夫故世の表面に立ちて偉勳を立てるといふ事は女子には適せぬが、世の中の種々な方面の調節者となつて微妙な働きをなす事が出來る者である。婦人は又子供の共同者である、子供はよく色々な質問を提出して大人を困らすものであるか、婦人は深い事を知らない代りに、多方面な質問に一通りの解答を與ふる事が出來る、女子は又經濟的である、男は頗る浪費的なものであるが、女子は男の捨て去る中から、役に立つものを拾つて一々其用途にあてる。

と云ふやうな事が書いてあります。此書にあります通り、女子は第二流の仕事以上に傑出する事が出來ないものと致しましても、これだけの事を致すにしても、吾々日本の女子は多くの活氣を要するのであります、たとへ目立ぬ仕事でありましても、其所に女子の使命がある事を自覺して、進んでやまぬ活氣と遠大なる考を以て小さな仕事をするのが、吾々女子の責任であると存じます（本郷教會婦人講話會演説筆記文責在記者）

夏は垣根の、ほんほの〳〵、あやなしや卯の花、しら〳〵あけても、いかに防ひこぬ時鳥、かたひ夕だつ、あさすゞしき小村雨、こずゑにひぐらし蟬のれ、いづれ夕べはたゞならぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

伊香保より

野口せい

行かうと極めて留守を頼むと十七歳の若娘に家のすべてを托して門を出る迄三十分、あわたゞしさの限りかな。狂氣じみた振舞ひには毎時もながら呆きるゝ、たま／＼仕かけの仕事に針つけしまゝなるも可笑、今の娘には落着きがない口はもう少し靜かにと、今死んで果てようとする祖母さんが、青白い顔して私を見つめられた十五年も前の事が、今更の樣に浮いて來る。しつとりと落着いた女らしい女の德などは、どうも人の性分にもよると見えて娘のにほひなんか遠の昔に失せた私が、矢張此な鹽梅に心がさわぐ。伊香保は朝夕が寒い、三人分の羽織も袷も忘れぬ樣にと、二階と下とを平地の如く走る、東京からの三井氏を合せて同乘の連れ六人、久しき願ひの今日、今、夢の樣にして現はれたと思ふと、心と共に四方の山皆躍る。野は麥秋の今が盛りである、あの山が此間噴火したそうだと赤城の裾野を三井氏が指し給ふに、そは初耳、近くに居ながらと打驚いて話を手繰れば、西遙かなる淺間と東に近き赤城とを見違へて入らつしやる三井氏は、東京の人である事を忘れて居つた。電車は何とやらむの故障で近頃珍らしき遲さといふが、六年前の夏、此處を馬車にて行きし記臆に較ぶれば感謝の上の感謝、殊に澁川よりは如何はしき人相の車夫に抑され引かれて、私の樣な小さな身體一つでさへ、大男の二人に力を借らねば上られなかつた其山に、雲を縫ひつゝ初夏のみどりをくゞつて、線引く樣に氣持よく走る。眺望の廣きあたりにかかると、赤城、小野子、子持の連山が一目の中に集つて、爪で上る心地もかうだらうと一寸思つて見たら、肩のあたりがむづ／＼するからおかしい、榛名の山は頭上にちかく笑つて居る。

伊香保は不如歸の千明に宿る、仁泉亭或は此頃不如歸館ともいふとか、千明仁泉亭と書いてあるのを千明仁泉亭と讀んで納得して入らつしやる文學士もあつた。浪子の室の三階を仰ぎて、夕暗にほの白き其趾がまざまざ浮んで來る雲のちぎれに心迷ひて鳥の啼く音をあはれに聞いたつ、四日の旅路詩情ふしぎに動きて人と家とを忘る、三日目の午後に榛名湖畔に遊び給ひし男子方のその絶景をたゝへて、行き得ぬものは共に談ずるに足らずと云ふ風におは

すが懀くし。又の日あらば死んで其水に入るとも恨みなきの覺悟を以て行きましようと決心す、湖水の深さ三千尋、鯉、鮒、鰌岸邊の淺瀬には蜆なども棲めりと云ふ、湖畔亭なる旅館もありて女中の四五人も見へたりと聞く其夏の一ケ月斗り女中に雇つて呉れぬかと思ふ、思ひて獨り吹き出す、下女の務めに耐えざるの故ではない。手折りたまひし鈴蘭に似し花と、つつじとを湯に入れて家への土産にする、伊香保の草木は此湯によりて萎れし生命を吹き

かへする妙なり、山の花は今、かうしてつやよく活きて美しい思出を語つて居る。山の湯の十日の夢に飽いて都を戀ひたりし我なりしとは、如何に如何樣なる心の變化なりしかは知らず、歸り度ない『何時迄もかくてあらむの願ひぞと人を忘れて世に遠く居る』夢の餘りに深みへ入らぬ前にと、現つの手に引かれて歸つた。今、子供は澁川の憩ひ茶屋の爺さんに貰つた螢の十疋斗りが四日の旅のすべてなりしかの喜びに、小さき籠の青き光りに無心の夢を托して眠つて居る、私には又そろ／＼現し世の生活が迫つて來て頭がだん／＼重くなる、山に洗つた生命を大事に／＼持ちつゞけて、何時迄も何時迄もありたいと思ふ、數役者修養會といふには、前後ちよい／＼顏を出して、多くは何かの夢を見て居た、思へばあるまじき振舞とひそかに恐れつゝ

折ふしのゆめとや君の見てあらん
　　道にそむきて歌思ふ時

インディアンバンド

野の人

弘ちやんは、一昨年の秋北海道で生れて、今も父さんと母さんと唯三人、知る人もない遠い北の空で樂しく暮して居ます。そして今日此頃は隨分いたいげな子供になりました。

お家は陸軍の官舍の中にありますので、お母さんは、五時の起床喇叭を合圖に起き、お父さんの出勤の準備に、御飯を炊きお掃除もなさいます。で、そつと目をさまさぬやうに、弘ちやんを床の中に、のこして臺所で音もせぬやうに立ち働きます。其中弘ちやんもつい目をさましますが、インディアンバンドの五六十粒と南部煎餅の三枚との入つた木鉢がありますので、弘ちやんはすぐに手を其方にむけて、ひどくむづかることもありません。やがて隣室に伏せつておゐでの、父さんが、弘ちやん／＼とお呼び

になります。「枕もつて父ちやんのところにお出で」といふと「ハイ」と大きないらひをして、其木鉢と自分の小さな赤い枕とを持つて、父さんの布團の中に行きます。木鉢の中の南部せんべいといふのは、名詮自稱南部でやきはじめたもの、大きさは神戸の瓦煎餅位、まる形をした甘さも辛さも頗る淡く、價も一錢に三四枚ほどなのです。弘ちやんの住む土地あたりには、一町内に一二軒位これを商はないところはありません。これならば子供の胃を害ふこともありませんから、殆ど弘ちやんの常食になつて居ります。

モウ一つのインデアンバンドは、或日お父さんが歸り途に、千秋庵といふ菓子屋から、兵隊の形をした餅の中に、赤紅綠黄さま〴〵の色をして入つてゐたのをお土産に買つていらつしやると、僅四枚の前歯で、ポッリと噛み碎いては、薄甘い心のある香料を、甘美いと喜び食べました。爾後一日でもこれがなくては、ならぬことゝなつて、お父さんは、隔日十錢

づゝ買つて歸り、佛壇の中にしまつて置きます。弘ちやんは、口淋しくなると、佛壇の前に立つて「ウマ〱」と叫びます。お母さんが一つまみを前垂のポッポに入れてやるとウフンと喜んで又獨りでこれを食べながらおとなしく遊んで居ます。時にはこれを座敷中にまきちらして、それを一粒づゝ拾つては、或は食べ、或はかくしに入れ、或はお父さんやお母さんの口に入れてあげます。他手のない家庭では、この菓子が弘ちやんのために、大へんよいお相手をしてくれます。或時疊のしきあはせに、此菓子が五六粒落ちました。するとお父さんは、何の考もなく、火箸で之をほぢり出してやりましたが、これが弘ちやんには、餘程面白かつたと見えて、それからはわざとしきあはせに、こぼして、さつさと爐の中の火箸をもち出してほぢります。父さんは火箸は危いからとりあげて別な箸を與へましても、やつぱり火箸でなければ承知しません。これを見た父さんは、大へん感じて、模倣心の強烈な子供を育てるには、親た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るものの、深く愼まねばならぬことゝ思ひあたられました。子供の小さい頭には羽衣の天女のやうに詐りといふことをしらないでしやう。

父さんも小さい時――まだ四歳ほどの時分、田舍から都の兄さんの許に往きました。兄さんは、軍人でしたが、或日晩餐の折、小さな足をお膳の下に投げ出して居たのを、兄さんが見咎めて、軍刀を持ち出し、斬つてし

まふぞとおどかしました。小さかつた父さんは泣いて「御免〳〵」と、母さんと兄さんにあやまりました。所が其翌日、兄さんのお友達が見えて、二人で酒をくみかはしたが、此時は友も兄も不行儀に足を投げ出して居りました、これを目撃した弘ちやんの父さんは、何思ひけん矢庭に、軍刀を持ち出し、兄の側に立つて「斬る〳〵」と泣き聲で叫びました。兄

さんは昨晩の事を思ひ出し、兄さんが悪かつたとあやまりました。さうして、其わけを友達にも告げる、二人して其小さい頭を撫でゝやりましたとやら。誠に意味深い事實でございます。

さて床の中に入つて來た弘ちやんは、寝ながら煎餅の一枚をとつて、三ッ四ッに碎して父さんの口に押しこんで、咀嚼いて貰ひます。やがて三枚の煎餅がなくなるとそろ／＼匍ひ出しますが、其中母さんは厨屋から出てきて、「オ・おとなでした」といふて抱きあげ、着物を着換へさしてやり、お湯を手拭に沾して口内を清め顔を拭ふてやります。

朝の御飯がすめば、お父さんは出勤の用意をいたします。母さんは筒袖の着物を、木綿の袖のあるのに着換へ、弘ちやんには、小さい赤い靴を穿せて、父さんを送る準備をします。父さんは洋服をつけ、太い杖をつき、弘ちやんの手を引きながら門を出られます。恰も七時の診斷喇叭が鳴ると、弘ちやんはこれに合せてプップップ／＼と口ずさむ。母さんは門

を閉めて後からついて來られ、親子三人は、うら／＼と暖い春のあした、雲雀の囀る野邊に露を宿せる草を踏んで歩きます。向ふから新聞屋がいそ／＼ときて「坊ちやんさんハイ新聞」と東京朝日を一葉渡す坊ちやんさんは、それを父さんの手に「アイ」と渡す。父さんは之を見ながら歩いていらつしやる。坊ちやんは蕾のたんぽゝ摘んで行く。三々五々村の小學に通ふ小童達が父さん達の目につきます。かういふ時は、父さんも、母さんも、我子がかくして鞄をさげ友達をつれ學校に行く日が早く來れかしと、同じ思ひを抱きながら、小さい群を見送られます。父さんは「ハイ左様なら」と後を見返り／＼眞直な道を歩いて行く。弘ちやんは「ガッコ／＼」と叫びながら、行く人を見送りさまよひます。この可憐な親子は待つ人のない家に歸つて、春の日長きをも思はずに暮して、夕に父さんの歸りを迎ふるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏季の衛生法

小山憲佐

何れの季節を問はず、衣服、食物、住居の清潔を保持することは衛生上肝要な事で、殊に夏季は傳染病の流行すること多ければ、一層の注意を要します。又夏季には暍病、霍亂、中毒等の急病を起す事が多くありますから、次に此等の傳染病及急病の豫防法並に處置法の概略を述べて御參考に供へようと思ひます。

一、暍病

暍病には日射病と中熱病とありて、氣溫高きのみならず濕氣多くして風なく蒸し暑き時に起ります。又睡眠の足らざる時、空腹時等に劇しく運動する時は罹り易いので、外出する時は日傘帽子等を用ひて日光の直射を避け、衣服、帶紐等を可成緩やかに着用し徐々に歩行すべし。暍病に罹りし人は速に空氣の流通のよい陰ある所に頭を高くして寢せ、胸を開いて風を送り、顏胸等を水手拭氷囊等にて冷やし、手足を摩り、醒めたる時は冷した湯茶を呑ませ、眠らざる樣に注意する事が肝要で御座います。

二、中毒

夏季には飲食物の變敗すること速なるを以て、凡て新鮮なるものを撰ぶべき事は勿論でありますが、腐敗によりて生ずる毒には煮沸しても滅せざるものがあります。中毒を氣付きたる時は指先、羽等にて咽頭を刺戟し、又は多量の微溫湯、鹽湯を飲ましめて吐を催進するのであります。生卵、牛乳、食用油、「バタ」及湯茶は毒を稀釋するの効があります。又下劑を用ひ、藥品のない時は多量の砂糖水を呑ましめ毒を下しても宜しい。此の食當り(急性胃腸加答兒)を豫防するには、變敗せる飲食物、未熟の果實、多量の生水を飲食せざること、寢冷を起さゞる爲め夜間腹卷を用ふること等に注意しなければなりません。漢方醫の霍亂と云いましたのは暍病及食當りの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

總稱で御座います。

三、傳染病の豫防法

傳染病は種々なる黴菌が體内に侵入するによりて起るもので、其豫防法は此の黴菌を體中に入らしめないのが一番で、夫れ故第一に清潔を旨とし、手は特に屢々洗ひ、他人の手拭は決して借りてはならず他人の寢具を着る時は顔頸等に當る所に手拭を被へ咳嗽ある人に近いたり、又は塵埃中に呼吸することを避けなくてはなりません。古人の云ひました様に口は災の門たると同時に、病の門たることも多いのですから、勉めて清潔にし飲食する毎に含嗽をなし、飲食物でないものを口中に入れたり、書物を開く時指を舐り、鉛筆、毛筆軸等を口に入れるなどは危險で御座います。又小兒の錢を口中に入るゝは傳染病の危險あると同時に、誤て嚥下し、食道に嵌入して外科手術を要するに至ることがあります。玩具として錢をやるのは誠に心なき業と云はなければなりません。水は可成飲まない方がよく、充分に煮たる湯茶

は害はありませんが、不潔なる器に入れたり、又は蓋をせずに時を經つたものは危險なことが御座います。生牛乳も飲んではいけません。食物は充分に煮て生野菜、未熟果實等凡て生なものはいけません。又氷水は渇を醫すること能はざるのみならず、胃の殺菌作用を妨げ、自然傳染病に罹り易くならしめます。蠅の止りたるもの及腐敗の疑あるものを飲食すべからず、獸肉は腐敗すると變色し指で壓しますと指痕を止めます、魚の腐る時は目が濁ります。凡て肉類の腐敗甚しき時は臭氣がありますから誰にでも分る事であります。黴を生じた米も食つてはいけません。粉は握つて放つ時粘りて直に散らないのは腐敗の徴で御座います。室内は通氣を良くし掃除を叮嚀にしなければなりません。室の内外、手の多く觸る所、扉の取手等には病原菌の附着することがあります。被服、寢具疊等凡て乾燥することは豫防上大切な事で、殊に日光に晒す時は病原菌を撲滅するのか力があります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

、傳染病の種類

一、虎列剌、腹痛なくして下痢を起し、次で吐き後には米汁樣の便を下し、眼球陷沒し、眼瞼に暗灰色の暈を生じ、鼻尖り聲嗄れ、皮膚乾燥冷却し、撮し上れば皺が出來て故に復らず、渇甚しく小便少なく腓腸部に疼痛があります病原菌は患者の吐瀉物より水飲食物等に混じ、又指食器等に付きて口より入る、それ故患者又は病原菌の附着せる附添人に近付くは危險で御座います。生野菜、未熟果實を食ふと虎列剌に罹り易し。

二、赤痢、烈しき腹痛下痢を起し、裏急後重を來す下す量は次第に減少し、糊の樣なものに血液が混つて出て來る一旦治つても再發し易い、病原は菌と「アメーバ」との二種ありて、何れも下痢便中存在しております。水、飲食物に混じ又指、食器等に罹着して口より入る、生野菜、未熟果實を食する時は附り易い。

三、腸窒扶斯、約四週間の發熱ありて、頭痛烈しく、精神昏迷して譫語を發することあり。胸腹背等に桃色の細疹が生ずる、病原菌は大小便中にありて水、飯食物中に混じ又指其他のものに附着して口より入る、患者の巳に治痊して尙菌を保有するもの、又患者の傍にありし爲菌を有する人に接近するは危險です。

四、百斯篤、菌の侵入せる創より中樞に近く腫物を生じ、發熱し、顔面潮紅、歩行困難となる、肺「ペスト」にては咳嗽ありて血痰を出す、病原菌は百斯篤に罹れる鼠の糞尿患者腫物の膿大小便等の中に混じてをります。肺「ペスト」では痰沫中に病原菌がある。皮膚の小創より侵入して來る痰沫中の菌は呼吸或は鼠及蚤によりて傳播すること多い、夫れ故患者に接近することを避け、鼠及蚤を驅除につとめなければならぬ。以上の外に痘瘡、發疹、窒扶斯、猩紅熱、及實扶的里を加へたるものを法律上傳染病と定められてあります。

五、痲剌里亞、俗に瘧と稱し、一定時を隔て丶惡寒

戰慄發熱發汗を來す、病原虫は患者の血液にありて「アノフェレス」と稱する蚊が、患者の血を吸ひ、更に他の人を螫す時傳染するのであります。即ち蚊と同時に夏季に存する傳染病です、故に此の病を避くるには蚊に螫されざる様しなければならぬ。「キニーネ」を服用し居れば蚊に螫されても發病しないことがある。「アノフェレス」は普通の蚊(クーレックス)と異り翅に黒き斑紋を有し、壁等に止る時壁と鋭角をなす、普通の蚊は壁と平行して止るから容易に區別する事が出來ます。「アノフェレス」は二乃至三町以外に飛び行かないから麻剌里亞患者の家より三町以上離るゝ時は傳染を免る事が出來ます。

五浴、冷水摩擦

水浴の健康に益があるのは其冷かで心地よきが爲めではなく、又鹽水の効でもありません、要は適當なる運動と水波によれる全身按摩により、皮膚及筋肉を强壯ならしむにるよるのであります、日に燒けたる砂上に横臥し、暑くなれば冷水に飛び込みて、

静に浮び居りては如何に皮膚は黒くなつても、健康上何等の利益はありません、少しく冷氣を覺ゆる時刻に於て水中に入り充分に運動するのがいゝのです、水中に入る時耳を塞ぐには彈綿(普通の綿)がいゝので脱脂綿は反つて水を吸ひ込むからいけません。冷水浴又は冷水摩擦は皮膚血管を强壯ならしめ、感冒を豫防するの効があります、年中休まず勵行した方がよく夏季に於て開始するのがよろしい。

石の香や夏草赤く露暑し　(芭蕉)

夏草や近江や闇にも青い闇　(道彦)

雲の枕

せい子

山藤はほのかにしろく夢見居りみどりの褥、雲の枕に

初夏の山のみどりに小さなる身一つを吸はれて行きぬ

雲重く谷にまよへり灰色に心くもれり溫泉宿の雨

月あつき山懐に初夏の伊香保の町はおぼろにゆめむ

曾遊の六年の前ぞ浮びいづ共にいませし君を交へて

岩崎が伊香保のやかた戸の數の九百九十にまづぞ驚く

山桑の色の淋しき花もなほ鶴形して我心引く

すきまより人の目のぞく心地して歸りを延べし一夜ゆめみず

狂女のまねはするなと君いひぬ婢女の帯の紅きをすれば

煤色の麥藁帽と雪白のパナマ語れりうつる時代を

生きながら心萎れて海に山に生命を漁るあはれなるかな

洗髪風に吹かせて手弱女が素肌に居ると榛名富士見る

網膜の夢

田澤藤郎

○まほ上げていづこに行くや、わが魂をのせて冷き死の國に行く

○今日もまたかの瞳をばわすれかねかわたれどきの園を行く人

○日の玉と眞珠の玉と數あまた亂れかなしむ網膜のゆめ

○丁々と山にこだまし楠の木をきる山路をばただ一人行く

○いん／＼と夕の鐘なる死の島の波を渡りて夕の鐘なる

○いたましき、日の落日の香にむせび別れし時ゆ清くかなしき

○ゑふ人もさめたる人も、つくねんと並びて立てり落日の前

○この思ひとやの中にしんぎんす母のうれひは知るよしもなし

○サフランとピンクのあひの、かすかなる夢よりさむる淡路島山

天路のはて

大石秋華

○にしひがしはなればなれに雲の行く天路のはてもさびしと恨む

○ものゝ匂ひしみらにくゆる黄昏の明るさ、かゝる情調に生く

○たよりなき思ひしきりに胸に湧くこの寂寥をたれと祈らむ

○水無月の青野をわたる朝風の來てひくごときうれひなるらむ

○しとしとゝ青葉にそゝぐ雨の音しづかにわれの目とぢてきく夜

○別れてはかすかにひゞく夜の笛きくとごとくになつかし君よ

○華やかに灯影匂ひぬ遠方のものゝひゞきも艶にきく宵

○まのあたり自然の力目に見つゝあゝわれ神を讃じも得ずば

○月光のうるむそれより薄黄なる愁にじみぬ薔薇にほへば

○風白く草にみだれてさくら散るなにをかわれら祈りもとむべき

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

父母より娘へ

（前號所載若き女子の「家庭に對する希望」を讀みて）

本誌前號で發表致しました若い女子方の「家庭に對する希望」は、種々方面の思想を表はした縮圖とも見る事が出來ますので、之によりて一般世間の父兄がたの注意をひいた事と信じます、今度は「父母より娘へ」と題しまして「家庭に對する希望」の批評、注意、意見を集めました、若い方々の文章を批評の材料にした姿になりました事は誠に相濟まい事で御座いますが、私共の旨意は、父母と子女との間に大變な隔りが出來て、互に了解する事が出來ぬやうな現在の有樣に、何とかして橋渡しを試みたいと思ひましてからの事で御座います。今度の計劃によりて、父母方にも子女方にも多少御參考になる事を供給し得たならば私共は滿足なので御座います（記者）

『家庭に對する希望』を讀みて

村田勤

予は六月發行の新女界を手にするや、直ちに高等の教育を受けられた十名の、女子の家庭に對する御意見を讀んだ。深い感興を以て讀み了つた。また此十名の御意見の外に多分此欄内に入るゝ記者のお考へであつたらうと思はれる俊子さんの御意見をも拜讀しました。對座して物事を尋ねるやうの場合に、容易にはつきりと意見を陳べない習ひである我邦の若い女子達が、少しも遠慮なしに思ひ切つて平生のお考を發表して下されたのを殊に愉快に感じたのである。

虚心平氣になつて十一名の方々の御考を吟味して見ると、その中にはしとやかな御意見もあり、また極端な議論をなされた方もありますが、何れも從來

のまゝでは滿足して居られぬらしう感ぜられる。大體の上から區別して見ると、漸次的に日本の家庭を改良してゆきたいといふ御考と、稍々急激に新しい婦人の理想を實現したいといふ二種類あるやうである。また同じく家庭を改良して婦人の地位を高めやうとするにしても、先づ第一己れに省みて充分婦徳を磨いて尊敬を博し、然る上で徐ろに家庭に於ける婦人の地位を善くしたいといふ方々もあれば、頭から不平の聲を放ち反抗の態度を持し男子を敵として之に宣戰布告でも發しかねまじい意氣込の方々も見えるやうである。老人株や父母に對して多少反抗の態度を示されて居るのは半數以上もあらうかと思はれる。予は之に對して婦人としてあるまじい不穩の心がけであるといつて頭から叱斥するやうの考へはない。左りとて諸君に味方して聲援を與へるほどに無謀でもない。反抗は不平不滿の發表である。不平不滿は之を善用するなら社會に於ても個人に於ても進歩の原動力とすることが出來る。予は此意味で

妙齡女子の元氣と活動を喜ぶのである。

東京のみどりさんが『私は純潔なる男子にして始めて純潔なる女を要求し得る權利があるのだと思ひます。不貞なる男子の相手はやつぱり醜業婦が適當で御座いませう』といはれたのは予が平生の持論と符合した故か、非常に痛快に響いた。世には放蕩に身を持ちくづして恐るべき梅毒に罹つて居るやうな男が無殘や金の威光で無垢の少女を説いて妻にするやうの場合が文明國の眞ん中にさへ多くある。法律上には無罪であらうが道德上から見るに大惡人である以上の宣言はかゝる男に與ふべき痛棒であらう。予は帝國劇場の舞臺で我邦の屈指の名優が前の文句を聲朗かに言ひ放つても滿場の紳士淑女が之に喝采する時代の來らんことを切望して止まない。

福井のみどり子さんが『女子は所謂椽の下の力持ちを爲す所に貴い價値あるものではないでせうか、』といはれたのに予は同情もし敬服もいたします。これは眞に意味深い言葉である。此獻身犧牲の精神に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は多くの人を救ひ家庭を幸福にし、また國家を安泰にする力が潜んで居る。婦徳の最高最美の眞珠はこゝに存する。然し椽の下の力持ちは啻に婦人だけの務でなく、社會國家のあらゆる方面にその必要がある。まづ戰のことを例としやう大海戰の最中、指令塔で號令する人もあれば甲板で發砲して居る人もあらう。しかし若し船の底で絶えず石炭を焚いて居る火夫や船を動かし居る運轉士がなかつたら暫くも戰は出來るものでない。椽の下の力持ちは皇國の運命を興す上に與つて力あつたのである。我々の五官が機敏に働き手足を自由に動かすことの出來るのは目に見えぬ心臟や肺や胃腸がたえず椽の下の力持ちをやつて居るからである。歐米の或婦人のやうに男子で出來る事は女子も出來るといつて男子と競爭して負まいと試みるのは女子の使命であるまい、つまりは女子の不利益である。女子には男子がどうしても出來ない事をする能力があればこそ男子は女子に依賴せざるを得ないのである。然るに女子がその本領をすてゝ男子の領分に侵入して競爭しやうとするなら、男子は決して女子に負ける氣遣はない。近い話が柔能く剛を制するの妙法に由らず女子の剛を以て男子の剛を抑へやうとするのと同じである、かうなると女子は男子に爭ふのではなく、自らの天性に逆つて戰ふのである。

この外に第二類種に屬せしめねばならぬ稍々目覺ましい御意見が數篇ある。若葉さんの「自己が中心」と波子さんの「新らしい女より世の親達へ」といふのと今一つは「机上の空論」と題した文章である。此三篇はいかにも新らしい女達の新らしい御議論と伺はれる。老人達に見せたら目を廻はしかねまじいほどに奇拔な言葉もあるし、內務省の檢閲掛の目にふれたら朱の線を引きさうな論もある。しかし予はこれらの意氣を陳べられた方々に會つて話してみたら、それほど過激な御方ではあるまいかと思ふ。諸子が十年後になつて是等の論文をおよみ返しになつたら自ら微笑を禁じ得ない時が來るであらう。若い時分

にはかゝる放膽論を試みんのも一興であらう。若し此社會を三十歳未滿の青年男女丈に托したら、世は忽ち亂世になるであらう。また四十歳以上の人だけに托したなら、さぞかし活氣乏しい保守的な世の中をなるであらう。社會はフランスのギゾーのいつたやうに各種の異分子異主義の混戰の中に進歩するものである。

予は如上の御意見を以て諸子の創見とすることが出來ぬ。社會主義の一端にふれた個處もあるが、まだ社會學の全體を精はしく調べられた上でその意見を構成されたらうとも考へられぬ。諸子が現代思潮に關する研究もその觀察が充分廣く又深くなからうかとも察せられる點がある。諸子の熱し易い頭腦を最も強く刺擊したものは哲學上又は科學上の系統的の論ではなく、寧ろ文學にあらはれた思想に動かされたのではなからうか。近頃追々日本に紹介されたオプセンやベルナード・ショーの作は其重なるものでなからうか「人形の家」は實に若い女子達を覺醒するに恐るべき力がある。然し世間の男子は悉くヘルマーでない。又ヘルマーの女性觀は誤つて居たにせよ、自己に對する義務を聲言しつゝ良人と三人の息子等を棄てゝヘルマーの家を飛び出したノラの態度も感心するとは出來ぬ。予はイプセンを九泉より呼び來りてノラの後半生を劇にさせて見たい。否吾人は彼を待たずとも自ら想像することが出來やう。否々若し諸子がノラのやうな考を抱いて結婚生活に移らるゝとしたら、不和衝突は一年と經ぬ中に破裂するであらう。

女子の自覺とその大望には予は多大の同情を表して居る。諸子の目指す所は誤つて居ない。しかしその手段方法については最も愼重にすべきである。老人に對し男子に對しはた社會に對する反抗的態度は甚だ不穩當であらう。婦人問題は極めて複雜な社會問題の一である。いかなる天才でもとても文學的作品でこの難問題を解釋することは出來ぬ。今や此問題は漸く社會有識者の筆舌に上らうとして居る。ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た實際婦人の社會における地位は著しく進みつゝある。男子の中に多數の同情者がある。此際新らしい女達の態度の極めて愼重ならんことを要する。自分一個の空想を實行せんとはやまつて、女性全體の災禍を醸しても平氣で居るやうな突飛な個人主義者――自己中心主義者は嘗に社會の排斥を受くるのみでなく天下の女性を咀ふ者である。現代の女子は言よりも實行、理論よりも品性の力に由て徐々にその地位を高め家庭を改善することを最良の策と予は信ずるのである。予は岡崎女史の語を引用して本論を結ばう。

「日に月に進みゆく今日、たゞ進みゆく／＼てふ名にかられて、事も解せず無暗に自由解放の聲高く、自由はやがて放縦となりぬ。東西思想の大渦瀾の中に確乎たる基礎もなき若き子は寄せては返へす波の間にゆられ／＼てあてもなし。其弊害を見て、一ッは昔に退歩し、反て嚴格なる幽閉を慕はしむるに至りぬ。

予は今一言申し添へたい。それは女子の精神的鍛錬のことである。その素養のあるなしが諸子の意見や文章の間にいかにも明瞭にあらはれて居ることである。冀くば今後大に此點にお心がけあらんことを。

結婚問題

深田憲治

前號の紙上で拜見した青年婦人方の家庭への御註文の大分は結婚に關する事で、中には大分激しい語調も見えるやうですが、總じて現在の家庭の狀態に滿足せられないやうに見えます、是は要するに新舊道德の免れ難い衝突で、此の問題に限らず、現社會のあらゆる問題が此狀態にあるやうですが、之は近頃新たに始まつた事ではなく、今より二十餘年前卽ち明治二十年前後にも大分盛に議論の有つた事で、只以前のは女子敎育の範圍も狹かつたので、其議論

も今日程一般的では無かつたといふ丈けの違です、此問題は研究すれは中々範圍も廣く、又論じ詰めて行けば人生問題、社會問題の奥底に入つて行かねばならぬ事になるが、爰には

如何にして成立したる結婚が最も幸福で且つ正當であるだろうか

といふ事に限て、餘り八ケ間敷議論は避けて實際的に述べて見たいと思ひます。

概していへば普通公立の高等女學校出身の人は舊思想に對して温順であつて、隨て衝突も少ないが、基督教的訓練を受けた人は、舊家庭とは大分思想が相違して居る處から、少なからぬ煩悶を起すことが多いやうに見受られます、是が主なる原因は、前の方は結婚に對する格別の理想を與へられず、重もに温順道德を吹き込まれて居るし、後の方は結婚の重大なる意義と隨て之に對する無上の大責任を自覺して居る處から、此問題を自巳の人格に關する大問題として、深く考へ且つ堅く執る處があるによるであらうと思ふ、之が爲めに基督教徒は往々世間からつまらぬ誤解を招ぐこともあるが、それは何も恐るべき事ではない、只恐るべきは偏小なる理想にのみ走りて當面の大事を誤るのみならず、甚だしきは道德上の批難を免れざる如き行爲に出るに至ることであります、若い人はどうしても思想が一方に片寄り易い爲めに、半面の眞理を見ることを忘れる、然るに結婚は若い人の問題で又感情を興奮せしむる問題であるから、其の思想の根本が兩親や老人等と違ふやうな場合には、猶更以て危險が多いのであります、然し危險だとて關係せぬ譯には行かぬとすれば、是はどうしても充分の研究を遂げて、安全に難處を切り拔け得るやうにして置かねばならぬ。

さて結婚なるものは一口にいふならば、一人の男一人の女の人格と人格との永遠の結合といふ事になるでせう、して見れば結婚は財產でもない、智識でもない、地位でもない。無論容貌でもないといふ事になる、他人の意見は勿論、親の意見も社會の事情

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も當事者の意見を動かす力は無いといふことになるかうなると大分極端な話になつて、人格尊重の旨意にも悖るととなるのです、人格が無いといふことは他の一切はゼロであるといふこととは違ふ、況んや結婚は單に精神上の事でなく我々の社會

的生活の最大事の一であつて見れば、社會上の種々なる條件が具備しなければ成立せしむべき性質のもでない。只人格の一事は總ての他の條件を支配すべしといふに止まる、條件は社會的方面にある許りでなく心理的方面にも、生理的方面にもあ

る。人間の内的生活には、智識もあれば氣質もあり、身體にも又色々の條件が必要になつて來るといふ樣に、結婚は中々複雜なる問題を包含して居るものであるから、青年の活氣に任せて後先の考無しに決行しやうものなら、後悔先に立たずの消息位では追付かぬ事になります、是等は眼前の印鑑少なからず、いくらも實例は並んで居る。夫故に長き年代の經驗といふものが自然に社會の習慣的道德を形造つて、夫々の國々社會に夫々自然の規範となつて人心を支配して居るのであるが、我日本の現狀は、短日月間の急激なる變遷に逢ふて精神上社會上の事が總て混亂の有樣となり、一番困る事には兎角青年と老人とが萬事に衝突し易いので、人に取て最も安全なる習慣的道德のみでは頼みにならないから、勢ひ結婚問題の如きも新しい問題として研究せられなければならない事となるのです。

●●●●●●●●●●
配偶は誰が選擇するのが最も適當であらふか

といふ事を考へて見たいと思ひます。かく問ふたならば若い人は直に、それは勿論當事者たる男女であると答へるかも知れません。成程是には一理ある、他人の事でない、自分の事だもの、自分位自分の事の分かる者はない、當人同志か好いと思ふほどよい事はないやうではあるが、中々それには危險な分子が含まれてゐる、先づ第一は當人同志は餘りに感情に走り易いといふ事である、男女間の感情は好いにつけ惡いにつけブラインドなるもので、或は其ブラインドなところに神秘な、且つ神聖な意味も籠つて居るといふやうなものゝ、それが覺めぬブラインドならまだしも、兎角覺めて悔いるのが男女間の感情の傾向であります、感情は直感的のものであるが、其依て生ずる内容を分拆すれば中々複雜なものである、然し感情の興奮して居る間は當人が之を分拆することが出來ない、不完全な内容でも感情は道德なく興奮する、一旦興奮すると、坂を轉がる石の樣に一轉がり毎に勢付いて、如何なる物も跳ね飛ばして

底の底迄行かねば止まらぬ性質を持て居る、何かの機會で不圖反省が起ると此處に初めて分拆が行はれ內容の不備に心付くと只に此度は反動で反對の感情が起つて來るといふことは日常の事です、誰でも自分の經驗の中に覺がある事でせう、故に假りに此處に二人の男女の間に道德上極めて眞面目なる愛情が結ばれたとしても、夫が必ずしも結婚すべき性質のものであるとは限られぬ、結婚は一生涯の事であるから感情に走り易い選擇者に委せるのは危險であるといはねばなりません、次には靑年男女は互に眞相を知り惡い事でありませう、といふと隨分亂暴な批判だと思ふ方も有るかも知れませんが、元來若い男女の間には、一種の羞恥心が起る、夫が第一人の判斷力を晦ますと共に、又何といはふか一種の反應的變相が心身の上に起つて來る、といふた許では分るまいが言葉がないから仕方なく八ケ間敷い新語を作つたのですが、つまり無意識に在るの樣子が變るのです、其變つた處が非常に存在の心を動かすといふやうな事になる、是が靑年男女に免れ難い處であるが又非常に危險な處であります、男でも女でも自分に相應した樣な未婚の異性に對すると、ふつと樣子から言葉から變つて來る、夫が何も故意に善く見せたいと思つて自分を隱すとか飾るとかいふのではない實に已を得ざる兩性の本能的反應とでもいひませう少さな子供や、結婚した年輩者にはそれが極めて少ない、概していはゞ、男は妙に偉大寬容になり、女は妙に優美閑雅になる。夫が本來必ずしもそういふ性格の人でもないのが、己の好む異性に逢ふと、好む人に對する程猶更變相する。是等は局外者から見れば目立つ程に善く分るものであるが、當人同志の間には決して分らぬのみか、其偶發的變相が殊別に好く感ぜられるのです。然るに其變相は結婚後に於ては追々起らなくなる、平氣になつてしまうと、前とは丸で反對に見えるやうになる事がある、又實際反對の變相が顯はれるやうになるのです、例へば結婚時は大變寬大な男であつたのが、結婚後は中々に

やかましい夫に變化してしまうそれが、妻に對すると妙にやかましいのだから困る女の方にも之と同樣の變化がある、それは僞善をして居つたのではない、全く兩性間の一種の電氣に打たれてそういふ現象を呈するのです、此點が大分危險ではありますが、どうも然し乍ら本人同志は此危險を免れる事は六ケしい、次に猶ほ一つ危險が隱れて居る、それは未婚者間の愛情は必ずしも夫婦間の愛情たり得べしとは限られぬといふ事です、一寸妙に聞えるかも知れぬが、どうも是が往々見受ける事實であるから致方ない、是は一部分前條の理由にも關しても居るだろうか、自ら別の事でもあるからこゝに一箇條として立てたのです、全體未婚の男女が相愛する時の兩者の關係や立場は夫婦としての時のものとは多くの點に於て違ひます、夫故に前の場合に起つた愛情が後の場合になつても必ず同樣に起るとは限りません、未婚の間は第一同棲して居るのではなく、偶々相逢ふのでは、夫れも同性間の樣に密接なることは出來ぬ、御互に世事の責任を分つて居るのでもなく、經濟の勞苦を共にして居るでもなく、全く無責任な、而かも貯へられた强い感情を以て相逢ふのであるから、兩者が始終一つ家に重い責任を負ふて、辛い世の中を漕ぎ行く家庭生活とは莫大の相違がある、面白い人だ快活な人だと思つたが、案外陰欝で六ケ敷事もある、實際人には内面、外面といふ事もある、未婚の間は御互ひに外面ばかりに會ふのが、同棲すれば御互に内面ばかりに會はねばならぬ、とんと樣子が變つて來るのです、未婚の交は花の交であるが、夫婦の交は實の交です、花には實の味なく、實には花の姿がない、丸で違つてしまう、又愛情の性質も所謂戀愛といふものと夫婦の愛情とは、何處が似て居るかと思ふ程違ふものである、尤も此變化は漸次に一から一に移るのであるが、ともすれば熱烈なる未婚時の愛情が結婚後期年ならずして薄らぐといふやうな、世間に往々見る事實はいはれなしの變心ではなく、選擇者の不用心から自ら招いた結果であります

兎角花やかな愛情ほど危險は多いものと思はねばなりません、未婚者の夢想の家庭は現實の家庭とは全く違ふ、經驗せざることを夢想して、それが常に會はないじやありませんか、夫だから意外にも相愛して結べる夫婦が悲運に落ちて、媒介者に信賴せる平凡なる結婚が極めて幸福なる家庭を造ることが澤山ある。私は此點から所謂戀愛結婚なるものに極めて危險なることを揚言する、多分彼等は結婚前に餘りに戀の蜜を嘗めた償を、結婚後に拂はせられるのであらう、餘りに豫期が多い處には失望が多く來る未婚者間の愛情程互に豫期することの深く多いものはない、それだから其愛情が厚い程危險が重なるのです。

現今の女學生

某文學博士夫人

○昔と今と

當今「女學生」と云へば直ぐに庇髮ふつくりと、袴を着け靴を穿いた、妙齡女子の快活な姿が聯想されます、が、今から三十餘年の昔漸く東京の所々に女學校と云ふものが出來初めた時分で未だ「女學生」などといふ新しい名詞が無つた頃、その幼稚な女學校に敎を受けに行つた私共は、庇髮だの海老茶袴だの夢にも見た事はございません。まして靴を穿くなんて……髮は勿論日本髷（重に唐人髷、中には高島田に結つてゐる者もありました）、帶を高くしよいあげ、駒下駄でポコ／＼やつて行つた者です。昔時の女學校の生徒と現今の女學生とは、外觀だけでもこれ程の差違があるのです。それで敎はる所の學科はどうかと云ふと到底比較にはなりません、從て現今の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學生方は知識といひ思想といひ實に非常な進歩でございます。かくまで我が日本婦人があらゆる方面に於て發達されたかと思ふと、實にうれしく頼もしく、又己が身と比べて見て、少々羨ましいやうな氣もいたしまして、若し出來る事なら今二三十年若くなつて、勉强がして見たいやうにも思ひますが、これは出來ない相談で甚だ殘念なわけでございます、かういふ次第でございますから此間の新女界（第參卷第六號）の「家庭に對する希望」を讀んだ際の感想如何との御問に對しましては、注意の批評のとそんな事は思ひもよらない事で、唯感服いたしましたと申すの外ないのでございますが、それでも是非と仰やるなら致方ございません、「あれだから年寄は可厭だ」と仰しやる方がおありかも知れませんが、又老婆心とでも申しませう。

○別居論

皆様のお眼の着所はいろ／＼で家庭といふもの＼性質から考へ及ぼして、自己即ち主婦の責任を深く感ぜられる方もあり、現代の教育方針と違ふところの古い風習に從ふのはいやだ、古い人の干渉は御免だときつぱりしたお考の方もあり、結婚即ちお婿さん撰擇の上の條件について論ぜられる方もあり、其他種々の御高說、いづれも面白く拜見いたしました。就中十八公女樣でしたか、舅姑と別居を稱へる方もあるが、同居を望む人の方が多い、且御自分も後者の一人であるとの仰、何とやさしいお心根ではありませんか。一體老人の方から若い人の手前を遠慮して別居するのは仔細ありませんが、若い人の方から別居を要求されますのは、老人の方に取りましてはちとうれしくない樣です。今の世の中では誰でも彼でも親子同住といふ事は望まれません。職務上の都合や何かで是非とも別居せねばならぬ場合もあり、又別居を望んでも經濟上の都合とか、或は其他の事情のために同居必要の場合もありまする、それで實際は其場合／＼で適宜の方法に從ふとして大切なの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は双方の精神であると思ひます。親子即ち姑嫁一家に同住する場合は勿論の事ですが、別居の場合でもお互の心はどうか親密でありたいものと思ひます。

○姑と嫁

同居別居の問題はさておき私は姑對嫁について自分の思ふ處を申し上げたいと存じます。私は大いに古びた方ではありますが、まだお嫁さんのお仲間から脱けない身でございまして、折々母上即姑が初對面の人に向つて「此は次男の嫁でございます」といはれるので、面から火が出さうな恥しい思をするのですが、幾歳になつても、姑から見れば嫁は嫁です。處が私は又遠からず姑にもなりたい希望を持てゐる甚慾の深い者です、其代りにどちらの加勢もいたしませんで極く〳〵公平な所を申します。

一體お嫁にゆきたての若い人に向つて、限り知られぬ慈愛を以て、己を育てた生母と同じやうに姑を慕ひ之を愛せよといふのは、ちと無理な注文かと思ひますが、姑は己が大事な〳〵良人の母上であるから大切にせねばならぬといふ事は、絶えず念頭に留めてゐていただきたい。さうして其考が自然と行爲にあらはれますから、姑は必ず嫁を愛し之に信頼されませう。信頼されゝばされる程やさしくして上げ度くなるのは人情でございます。處が姑といふ者は面倒な者、意地の惡い者と思ひ込むと、疑心鬼を生ずで、眞直なものも曲つて見えるのです。或臆病者が雨の降る眞暗な晩に、おばけが出やしないかと思つて、びく〳〵して歩いてゐると、忽ち向の方に大きな〳〵一ッ目小僧が現れました、處が一ッ目小僧と思つたのは蛇の目傘であつたといふおかしな話があります。お互の心の眼に猜疑とかひがみとかいふやうな色眼鏡をかけないで、なるべく虚心平氣で接したならそんなにむづかしいものではないと思ひます。よく人が申しますが里にやつた子は愛が薄い、それにひきかへ他人の子でも乳を呑ませ或は世話をした子はかはいゝと、人情といふものは不思議なも

のでございます姑嫁の間でもお互が相信じ相賴つてゆきます間には次第に情も増して來るにちがひありません別居必ずしも惡いとは申しませんが老人や若い人や子供が團欒してをる家庭程傍の見る目にも心地よいものはないと思ひます。

敬愛なる若い姉妹方へ

海老名みや

△實際社會の有樣

前號にはお若い方々から樣々の御希望を伺ひまして誠に面白うございましたが、此度は年を取つた者の方から希望を述べるんださうですが、私は年は取つても何時迄も書生氣が失せませんで、若い方々が一生懸命に勉强して居られるのを見ますと、自身も一勉强して見度位の考は屢々起る程で、どちらかと申せば、老人側より若い方に同情同感の點が多いものですから、早やく嫁に跡目を讓つて、樂隱居がし

て見度などゝは夢にも思ひ出せさうもありませぬ。で皆さんの被仰ることは大抵皆御同意で結婚問題も隱居排斥も、別居論も結構です。其他のことも決して御無理な注文でもありますまい。年を取つた側でも少し譯の分つた方々は左樣あり度と希望せられて居るだらうと思ひます。處がさて實際となると結婚問題で親子の大衝突が演ぜられたり、もう内の伜も法學士となつた。これ迄骨を折つて勉强させたから之れからは樂隱居だと、まだ衣食にすらあり付かない息子に右から左からすがり付て其發展の道を妨げる親だちもある樣です。家庭の圓滿は誰しも望む所、それなればさうしたらよささうなものであるのに、殆ど片つぱしから亂調子で、洋々たる春の海の樣な眞のスヰートホームは何處にあるでしやう。見渡す所マア、實に稀である樣に考へられます。私共の親の時代祖母の時代も亦其前の前から女と云ふは「かう云ふもの」だと敎へられて育つたもの昔の人々でも義理や見えをすてゝしまへば實際の腹の虫は「か

ういふもの」では承知を致しません、人しれず笑ひて、歎つて、一生を送つたものがどの位ありましたらう、況やこゝ二三十年女といふは「かういふもの」ではないと幾らか理屈を聞初めて、覺り初めて見れば女の身のみじめさが一層深く感せられて來まして、もがいても見度なつたり、何がなこれを脱する道はないかと朝夕思ひなやんで居られる人々も澤山であらうと思ひます。男子だとて自分の行爲を俯仰天地に恥ずと信じて行ふものではありますまい。なければこそあれも秘密これも秘密で、暗黒面が半ばを占めてるではありませぬか。かく惡いと知りながら自ら希ふ樣に爲すことが出來ないとは實に情ないものですが、これが實際社會の有樣であります。

△益々醒めて戴きたい

それで私は現代の「新しい女」「覺たる女」の方々に希望致しますのは皆さんに益々覺めて戴度い、又い、よく覺めていたゞき度のです。半ば夢半ば現で一生を送ることも出來ない事ではありませぬが、眞にさめ心地よくさめて我身の何たるを自覺して日々それ相當の行爲をなしてこそ此世に生き甲斐あるものなれと思ひます。思へば今より三十幾年の昔、女も今迄の樣に無教育で置てはならぬ。男子の樣に教育をすべきものだと云ふ事がある譯の分つた人々から云ひ出されて、極小數の少女達は彼方此方に小さな仲間をこしらへて、さま〴〵の方法をもつて四角な字や、横の字を、お稽古し初めました。今から思へば其教育法の不完全なことは、お話になりませぬが、其勉學の興味と熱心は實に盛なものでございました。其當時慥かにこれらの少女等は「新らしい女」でありました。現今の樣に色々の言語もなかつた爲、言ひ顯はす術を知らなかつたのでありますが、何か一種の深い自覺を持て居た者であります。私なども其中の一人であり得たとは、亡き父母や先輩に深く謝して居ります。しかもその頃よりして基督教をきゝ初め宗教思想を養はれましたので男女の貞操といふと

は深く〳〵頭にしみ込みました。女子の貞操は從來嚴格に敎へられたものですが男子も女子も其點に異りはない。人間は一夫一婦たるべきことを明確に敎へてある宗敎をきゝますとは日本の女子にとつては福音であります。否へ實によび醒されたのであります。若し私が其時せめて二十歳前後にもなつてをりまして　世の中の狀態も知つて居て初めてこのことをきゝましたなら嘸著しい感じを持つたであらうと思ひますが、まだ十五六のほんの子供でありましたから、極漠然ではありましたが、それからと云ふものは親戚や知人の家庭などを思ひ起して、まあ彼の方はお氣の毒だ、嘸苦勞をなさるだらうなどゝ家庭の有樣に氣が付く樣になりました。そして自分は幸にして同じ精神を持つて居る人の許に嫁して女としての幸福、女としての本分を全ふすることを得るに至りましたにつけ世の不幸な境遇にある同胞のことを益々痛切に感ずるのであります。

△概して理屈が多すぎる

先に悟つたものは必ず其人の上に大責任があることを忘れてはなりませぬ。只覺めて憤慨して八方に當り散らしたとて何にもなりませぬ。親との意見の衝突もありましやう、先輩の言葉もつまらなく思はれることもあらうと思ひます。けれども現實の狀態は親や先輩が作り出したといふわけではなく、長い〳〵間流れ〳〵て今日に至つたのでありまして、殊に此苦しい境遇を今日まで渡り來つた母親には不平處でなく十二分の同情を注いであげねばならないと思ひます。若い方々は敎育を受けたおかげで頭腦も明晰で、これはかうあれはあゝと、理屈がついて來ますから兎角ことを六ケ敷考へ過ぎて實行に疎くなる憂があります。現在の狀態をよしともあしとも考へないで、今日は今日、明日は明日と、夢中で送つた昔の人に比べて大變な進步でありますが概してあんまり理屈が多過ぎる樣に思ひます。と其理屈がどう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かすると横理屈になつて自分で解釋に苦しむといふ様なことになります。それは複雜な今日の過渡時代に生れ合せたものですもの何もかもうつかりで通れるものではありませぬが出來る丈實行を主とする樣に致し度と思ひます只獨で此世を觀じて居るのでなく實際世界といつも相對して親に對して無限の愛情を運び兄弟に對して温い同情と親しみを以て相睦むといふ様に實行に心をそゝぐといふ様に致しましたら、六ヶ敷い頭の疑問も自ら氷解する様になるであらうと思ひます。そして皆さんがいまに自身にお作りにならんとする家庭に眞に理想的なものを作つて頂き度い。

二　實際に弱い今の女

結婚問題に付て六ケしいことを論じて居られる方々でやゝともすると實際に出會して、思はぬ方面に行てしまはれる方々が随分澤山あります。たとへば兼て男子の品行をやかましく云つて居る人で、ある男子に結婚を申込まれたと致しましやう。しかも其男子は曾てはあらぬ行狀を爲したものでありますが君ならではと再三の申込に氣の毒になりつひ我を折つて承諾をする。しかして兩人相結ばつて後はどうであるかと申ますと、幾年かの後男は再び舊の惡弊に陷つて女は從て苦勞をするといふ樣なことは澤山あります。何故男子の貞操を重んずるならば、不貞操の行を爲す心配のある男子に嫁しますか。日本婦人は其點になると實に弱いと思ひます。又は何々學士で財産家でこれ〳〵の位置にある人だといへば、少し位其品行上に非難があつても、飛で行く人も随分あります、それが昔の考へ其儘の人で男子の品行を問はない舊い親達の勸で已むなくと云ふのなら實に氣の毒でありますが、其場に臨むと自分自身の判斷が直ぐ間違つて來るから困ります。それ故何卒眞に今の女子の運命をはかないと覺つた方々は先づ第一に御自身の人生のふみだしに於て深い注意と斷乎たる決心を實行して頂き度いと思ひます、どんな蜂蜜の樣なおはなしでも當の人物に少しでも危ぶむ點があれば斷じて申込を承諾してはいけませぬ、又たとへどんな貧苦の境遇に居る人でも其人物に眞に信賴すべき處があれば、共に勞苦を擀つて運命を開き光榮ある人生を豫期して心を定められたならば必ず其希望は恥を來さないことを信じます。今の教育ある女子がこれ丈の決心を以てどし〳〵實行せられますことは社會改良の大勢力であります。世の輕薄男子が生粹と云はゞ云へ少しも恐るゝに足りませぬ。たゞに女子の運命を開くのみならず此腐さつた社會にどの位生氣をいれることに爲るでありましやう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△勇しくお立なさい

愛する若い姉妹方よ、倚繰返して申ますあなた方は根本的に目醒めて下さい。年とつたものゝ中にも同情同感のものがあります。此現實の社會は遠い〳〵他人ではなく私共の親兄弟親類朋友であります彼らの不幸は自分の不幸、彼らの悲しみは自分の悲みであることを忘れてはなりませぬ。私共は大い小さいに係らず世に奉仕すべく生れて居ることを忘れてはなりませぬ。己れ一個のことのみを思ひ己れ一個の幸福を求めんとする人は到底人生の解釋も出來ず不平不滿の生涯を送ることを免かれませぬ。不幸にして分らぬ親御をお持ちになつたなら優しい心を以て徐ろに親御のお心を開くことをお務めなさい。今より三十幾年の昔、若い人々が宗教を信じた時彼等と親、先輩との間に大衝突が起りました。其時は若い人々の方が大忍耐をして其迫害を堪へたのみならず終に其眞面目なる優しい行爲を以て幾年かの後其親の心をとかして熱心なる信者と化しました。しかして此親と子は永久に身に於ても精神に於てもはなすべからざる親子に爲ることが出來ました。現代の若い方々には充分の教育があります、世を捨つて立つの力は備つてあります、皆さん勇ましくお立ちなさい。然かして偕に〳〵に世の儚い運命の下にある同胞の爲に盡さうではありませぬか。

信仰は總ての要求を容れて餘りあり

小崎千代子

丁度宅には年頃の娘も居るので御座いますが「父母より娘へ」と云つて、事新らしく申し聞せる事も御座いません。幸に一家が信仰の生活を送つて居りますから、教訓すべき處は、幼少より最ちやんと胸に沁み込んで居る筈だと存じます。新女界を拜見致しまして若い方々が兩親や子に對して種々なる御注

文を承知致しましたが、中には随分など思はれる程激しい御言葉だと思はれるのも御座いましたやうで御座います。そりや廣い世の中の事ですから、所謂わからない親御さんの爲めに言ふに言はれぬ苦悶をしておゐでになる方々もある事で御座いませう、現に私の知り合つて居る中にもちよい〱此種の不平が漏れて聞えるのもありますが、然し高等女學校卒業程度の娘を持つて居る私共位の年齢の方々ならばいくら何でも今の若い人達から解らずやと云はれる程では決してなからふと存じます。事情はちがひますが私などは女學生々活も送り、寄宿舍の御飯も食べて來た者ですから、今の若い方々に對して決して無理な要求をする筈がないのであります。それ故自覺とか覺醒とか申す事は誠に結構な事で御座いますが、最少し本當に、最少しやさしく女らしくしなければ、折角の覺醒も却つて惡るい結果を來す事となるであらふと存せられます、所詮女はやさしく女らしくなければ意味のないもので御座いますから、敎える人も、習ふ人も此處に留意しないと飛んだ事になつて仕舞ます。

結婚問題で御座いますか、娘の心持ちなんど聞いた事も御座いませんし、又聞かうとも思つて居りませんが、將來の事は神樣きり御存知がない事ですから徒らにやきもきするは愚な事で御座います。一體結婚と申す事は人生の一大事で御座いますから、念に念を入れて實行しなければならぬ事は勿論で御座いますから、男子の品行や貞潔を取り調べる事などは申すにも及びません、然し人生の事は明日が計られぬ、禍福は糾へる繩の如しとやらで、結婚當時は誠に愉快な幸福な生活でありましても、良人の上にどんな變化が起らぬとも限りません。或は一朝にして身を持ちくづして、墮落の淵に沈みはてる事も御座いませう、若しこんな場合に遭遇致しましたなら、今の若い方々は如何なさる事で御座いませう。斯る場合に最も早く最も輕卒に怨聲を出して、自己の運命を呪ひ、果ては自ら好んで破鏡を嘆くといふ方々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が却つて覺醒したとおつしやる、若かい方々の中に多くはないでせうか。私はかゝる場合に處して動せぬ覺悟は御嫁入する前に持つて居る可き筈だと思ひます。犧牲の精神と信仰の輝きとを以つて、最後の勝利を自分の手で獲るのが、本當の意味での覺醒した女子、自覺した女子と申すのだらふと思ひます。

別居と云ふ事も問題になつて居る樣で御座いますが、若し之が若い方々の口から要求される事だと致しましたなら、實に情ない事だと思ひます。經濟上別居が自由に御出來になる方で、親御樣の御希望であるとでも申しますなら、それには問題も御座いませんが、一般の家庭道德の根本から考へまして、別居といふ事は如何も面白く感ぜられません。今迄愛撫して來た子供にお嫁さんを貰つた、安心だ、うれしい、一家團欒の樂みは更に一層加はる事であらふと喜んで居ります時に、子供の方から、氣づまりだから、別居しようと申し出して來ましたら、若し私がそんな風に別居を要求されたら、屹度不愉快に感ずるであらふと思ひます。同居するについての注意は確かに心得なければならぬ事ですが、私は子供の方から別居論を申し出して來る其精神は決してうれしいものとは思はれないと存じます。何れにしても親も子も、お互に確な信仰の上に立つて、相敬し相愛しましたなら、家庭の中には決して風波は起らずよしや起りました處で、適當に解決がついて行く事であらふと信じて居ります。(文責任記者)

家庭に對する希望

記者曰、次の二篇は前號の「家庭に對する希望」にとて送つて下さいましたのですが遲くなつた爲め前號に間に合ひませんでしたので、本號に載せる事を致しました。

貰い疲勞

東京　紫嵐

「私のうち」と云つた其自分の生れた家ばつかりがホームと思つて居た下髮の頭讀本を抱へて初めてホ

ームといふ字を習つて、それを家庭と覺えましてから、ホームとさへ云へばにこ〳〵した父樣母樣兄樣を思ひ出して、これがホームと思つて居りました。その私が、いつ頃からでせう、生意氣にも、ホームといふものは男の汗と女の涙とによつて固められたもので、男でも女でも、少しでも強い者が勝手氣儘をする所のものと自分で決定てしまつたのです。それ以來私は相變らず家戀しがりで人に笑はれながらホームといふものに對しては輕蔑憎嫌を持つて居りました。で、男の最も醜いこゝろと女の最も陋劣いところとが遺憾なく露出されるところがホームと思ひ定めた私は、女が(男は知りません)ホームを造るといふ事はすべてを諦めなくては出來ぬことゝ解釋して居りました。

今私は思ひ切つて間違つて居た自分の過去の考を決して無益だつたとも恥しいとも思ひません。皆知らねばならぬホームの一面であつたと信じて居ります。何しろ此世に生れて第一の世界である、印象の深い「我が家」といふものを、すてなければならぬ、その悲しみを堪へ得る樣に出來て居る女の心を考へる樣になりましてから、私は非常に變りました。で今頃は、ホームは人間が最も完全に近い捧物を供へる事の出來る祭壇であると信ずる樣になつたのでございます。又さう信ずるばかりでなく、どうしてもさうしなければならぬと思つて居ります。人が自由に不安なしに誠と愛の行爲をなし得る所、最も眞の意味に近い犠牲をなすことの出來るところがホームであると云ひ得る樣にならねばならぬと切に思つて居ります。

私は友の新しいホームを訪ねましていつも感ずる事はそのホームの空氣に張りのあるのとないのとです。小さい家に極く簡單な生活をしてゐるホームに引しまつた爽快かな空氣の充滿してゐるのを感ずるのがありますし、物々しい門構をして、迷子にでもなりさうな廣大な家に華美な生活して居ながら弛んだ空氣が動きもせずに溜つて居て、車や馬車の音お

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ざろ〳〵しい、そのにぎやかな響がかへつて淋しい反響をなしてゐるホームがあります。或意味に於てホームは社會と獨立して、守られてる城の樣な趣がなければならないと思ひます。安息や慰藉を求める者の爲には、自由に開放されてゐるホームは侵す者寄するものゝ爲には凡てを犧牲にしても守るほどの力がなければならぬと思ひます。又新しく家をもつた人が何事にも「家事に追はれ」と口癖の樣に云つて始終齷齪して居るのを見ます。こんな人に限つて割合心は空なもので、そのホームは活動して居る樣に見えますが、眞の生氣が滿ちて居ませんから、丁度機械の忙がしさの樣なものです。又身ばかりでなく大變心も使つてゐる、卽ち氣をあれこれと使かつてゐて頭がまるつきりお留守な人があります。其人のホームは何處か物足らぬ所がある。なんですかすぐ疲勞が襲うて來る樣に思はれて、全き安心を覺えることが出來ません。身體ばかり働かせるのが眞のサーブだと思つたり、心ばかり使ふのが誠の愛だと思つて居るのは非常な誤だと思ひます。ともかくも世に疲勞した、褪せた色をしてゐるホームほど心苦しいものはございますまい。爭ふ力がなくなつて靜かになつてゐるホームほど哀れなものはございますまい。

私は耶蘇信者でありますからこう思ひます。ホームは來るべき最も完全なるホームの雛形であると共にその小さい此世のホームの貴さ、その價値は決して限りある人の世だけで終るものでなく、その本體なる無限のホームに合すべきものといふ信仰でございます。さういたしますとよし完全のものに遠くなつても、その完全なものに向つて進んでゆくといふ處は人間の心を十分に滿足させ、貴くさせるものと思ひます。つまり一口に申しますと私のホームといふものに對して切に望んで居ります事は、唯これだけ、卽ち最も高きもの、完全なるものに進んでゆく正直な努力でございます。自分の魂が喘ぎ慕ふその高きものに至る道を、弱い小さい自分の手足で造つ

て歩いてゆく事でございます。この正直な努力は人間に貴い疲勞を覺えさせ、この疲勞は愉快な安息を與へます。そしてこの疲勞と安息とは人間の持ち得べき最大の滿足と平和とを生みます。家庭(ホーム)を造る人の精神が此點にございますれば、如何なる境遇にあるホームでございましても無益な不和不平がある筈がなく、又惜むべき恥づべき無氣力に陷る事もないと存じます。私は自分の極くせまい世界の中にあるホームに付て強く感じて居りますことを無遠慮に申上てみました。

男子方の自重を望む

東京　かはる

△人妻となつた上は

一旦人妻となつて、家庭の人となつた上は、其夫に對して絕對的服從せねばならぬと云ふ事は、暫々耳に致す事でございます。之は實に婦人の缺點と申して宜しい處で、其處に婦人の生命があり、婦人の價値は潜んでをるらしく思はれるのでございます。私は全然さうなくてはならぬ、誠にさうあつて欲しいと望む者でございます。然るに、我日本も自働車や飛行器でなくては氣のすまぬ文明界に迄乘り込んで來た今日、女子敎育は益々重ぜられて新婦人はどし〳〵と遣り上げられる其中に、何故あつて己獨り昔の敎を奉じて靜止して居られよう、男子が人間ならば女子も人間であらう、男子に意見(おもわく)のある如くに女子にも意思はある。造物者の手加減で、男子にも女子にも仕上げられるものを、今となつて人間が區別をするのは理でない、堂々と意見を發表する權利は慥にある、同權論を主張する位でなくては近代の婦人として耻づべきであると云ふやうな思想が頻りに勢力を得て來たのでございます。かくして日本婦人の位置は一段と高くなつた如くに考へられてまゐりました。かういふ蠻行の盛んな處へ絕對的服從論などゝ申す、最も振はざる舊式なものを持出したとて、一も二もなく、攻擊されるのは普通のことでございます。

全く、人間と申すものは、男子に限らず、女子に限らず、人にするよりは、人からされる方が何かかう、一段と上座の樣な心持がしてゐるものですから、絕對的服從などゝいふ事は實に不見識極まる沙汰と思へば思はれもすると同時に、男女同權で服從などはしもせず、されもせずといふ風であつたならば、どんなによいか知れませんのです。傍觀して居つても仲々興味があるやうに思はれます。

出來るならば、どうぞさう成つて欲しいと只管望む處でございますが、さて其結果は如何でせう、婦人の格が一段上つたやうな時世になつて來たといふので、忽ち辟易して、やすやすと感心するやうな意久地のない男子方ばかりならば誠に骨が折れなくて結構なことでございますけれど、どうしてどうして、そんな女壯士は眞平だと

感張る男子が澤山あるのでございます。自己の見識のない女性が慾じ、時代の流に卷込まれて前後を顧ず、物事をやつてのける時は往々思はない悲境に身を陷れて再び立つ事の出來ぬやうになつた例が尠くないのでございます。

絶對的服從せよといつたならば、或人の、それでは自己を全然沒却して了ふではないかと咎められるかも知れません。しかし私はさうではないと思ひます。婦人たるものは自己を失はればこそ絶對的服從も出來るであらうと存じます。又絶對的服從をして始めて自己が生きるのであらうと存じます。束縛に甘んじて始めて自由を得られるのと同樣であります。絶對的服從は實に婦人となつて此世に生れて來たものでなければ味ふ事の出來ない離技でございます。物事を辨へてゐればゐるほど、何事もよつく呑込んで居れば居るほど、妻の絶對的服從は其夫に對して最も力ある處であらうと信じます。自動車もよろしいでせう、飛行機も結構です、女子教育も益々盛んにならん事を希望します。文明はどの邊まで進むものやらわかりません。時世はどの位變化して行くものであるか知りません、とにかく昔も今も、男子は男子、女子は女子、女子はどこまでもつゝしまやかな處に女子の美を保つて居て欲しいものです。男十の缺點を無暗に擧げた處で、權利の有無を喋々と論じた處で比較的効果はない樣です。其れよりは無言の服從の中に言ひ知らぬ美を發輝させて欲しいものです。聲あるの聲は百里に過ぎず、聲なきの聲は延いて四海に及ぶと申します。柳の枝に雪折れなし、一旦人妻となつた上はかくあつてほしいと、私は今切に希望する處でございます。

△妻を愛して下さるなら

近代的夫君なる方々に切に望みます。

妻を愛して下さるならば、目がない程愛して戴きたいものです、重んじて下さるならばどこまでも重んじて大事にいたわつて欲しいものです。但し自己の識見を失つて、妻から見透されるやうな事のない程度にしておいて戴きたいと思ひます。別仕立に出來上つてゐる婦人は別として、總じて婦人といふものはごく單純な正直者ゆゑ何事もありのまゝ受けて、ともすれば、付け上がり度い氣味のあるものでございます。付け上つて居る御當人は大さう得意なものでよろしうございませうが、他からはいかにも見にくいものでもあり、ずゐぶん傍が迷惑を致します。勿論婦人の性質によつて容易く得意になり得るものと、得ないものとは御座いませうが、とにかく男子方の舵の取り方如何に因つてずゐぶん女子も養ひ難くはないものでございますからよろしく夫にならるゝ方々は餘裕があつて寛大であると同時に、男子相應の犯すべからざる威嚴があつて欲しいものです。世の中には立派な教育を受けられた何々學士とも云はれる方々がずゐぶん不見識な眞似をなすつて入らつしやるやうでございます。私の友人に一人文學士がございますが、自分の好みでわざ〳〵尤も實行のよくない商賣を撰びながら、いつも愚痴を溢ぼして居られます。しかし中學校の二つ三つも掛持をして居る位ですから、生活に困難な筈はないのです。それでは何故そんなに愚痴を溢されるのかと思へば、其方には美しい若い妻君があるのです、そして其妻君の實家といふのがかなり裕福にやつてゐて妻君はとかく鼻が高いらしいのです、そこで何よりも勝つて妻君孝行の文學士は、非常に不安でならないのですどうかして特別に妻君を喜ばせやり度い〳〵とそれは〳〵氣

を採み上げたす爲、此時こそと浮れてお得意の筆を振りまわして、ちよこちよこした創作をやりました。そして、物になりさうな雜誌社や何かに平身低頭して依賴してまわつた結果、思ふ笑つぼにはまらぬ時は青くなつて煩悶するのです。萬一間がよくつて、僅かの原稿料が得られる時はいそ〳〵として妻君同伴で三越を訪問するさうです。そして新調の長襦袢や、コンパル式に瞳を光らせる妻君の顏を見てこれを無上の樂しみとしてゐられます、誠にやさしい、賴母しい　感心の心がけの方であると、婦人側から云はせれば云はれない事は御座いません……。が婦人の歡心が得らるゝために利用される文學　こそずゐぶん迷惑な話でございます。文學のよしあしはともかくも、男子といふものは妻女の爲めにかうまで齷齪しなくてはならないのかと思ふ時、云ひ知らぬ悲哀の感に打たれるのでございます、婦人は皆が皆、お客に物を強請(ねだ)る藝者根性は持つてなりませんのです、かういふ夫君に對して心ある妻君は決して尊敬を拂ひは致しますまい。心なき妻君に至つては徒に付け上るばかりで家庭は亂れるに定つて居ります、其の文學士の妻君などは立派に高等敎育まで受けられた方なのですけれど、終始お友達の服裝の事ばかり氣にして居つて困ると、現に先達も來られて愚痴を溢ぼして居られました。其妻君は生れつき虛榮心の強い所謂女性であつたかどうか存じませんが。とにかく女子は幼い頃から、家庭に於て夫をして內顧の過無からしむるやうにとずゐぶん敎はつて居るのです、そして一生懸命に努めて居るものも尠くはないのですから、片はしから無暗に愛に溺れて、御自身で餘計な御心配をなさるには及びませんです。

夫として妻君を喜ばせて下さる事は誠に願はしい事でございますが、自己の見識丈けはどこまでも保つて戴きたい。犯されない威嚴丈けはどこまでも持つていたゞき度いものでございます、妻から何でも思ふやうにして下さる都合のよい方だと思はれるよりは、妻が淺墓な女心を夫の前に耻ぢて反省する位な立派な見識のある方であつて欲しいものです。

何處そこの妻君は虛榮心が强くて困るとか、洒落度がつて仕樣がないとかずゐぶん喧しい攻擊が方々から聞ゐて來ますが、どこからどこまで婦人の罪ではございません。大事にいたわつて下さる志のある方は其點に御一考を煩し度いのでございます。

若い女子の口からこの樣な痴がましい事を申すのも如何はしく存じますが、尠くとも、婦人に絕對的服從を要求せらるゝ男子方は宜しく御自重せられん事を希望致すのでございます。

隨感

避暑の一ヶ月は家庭教育の最好時機

海老名みや

もう今年も何時の間にか避暑の時となりました。避暑などゝ申と何だか贅澤な様ですが、日頃非常に多忙な生活や精神過勞の仕事に從事して居る者には一ヶ月位は是非轉地して身心を休養し神様一轉する必要があると思ひます。殊に子供には其功能は莫大なものがあると思います。少しお弱な子でも暫時の海岸生活で見違ふ様になりますことは間々見きゝする事實であります。山か海かとのお尋ねでございますか。それは子供の體質で適不適がありましやうがまあ大抵な子供は海がよろしいやうです。第一興味が多くて運動の種類が多くてそして活潑な遊びが出來ます。精神上の益と云つたら又大變なものがあらうと思ひます。都住ひのものは兎角自然に接する機會が少ふござひましてお米のなる木も知らないもの許りですから、たまに廣々とした野山の景色を見お芋や茄子やお大根が畑に青々と出來てるのを見る丈でもどんなによい氣持になりますか知れませぬ、プリ〱とお怒りつぽい子などは乾度ゆつたりとおだやかになります。兩親揃つて子供をつれて參れば尚結構ですが勤の工合でさうも參ませぬならば、是非母親丈は一所に參る樣に致し度と思ひます。何故なれば避暑の一ヶ月間は家庭教育の最好時機であると思ひます。親も平素の仕事をやめて居ります。子供も學校がありませぬから親子接する機會の最多い時であります。子供各自の性質もよく分りましてそれぞれに注意すべき點は注意し又其癖を矯める事も出

來ます。生活は可成簡易にして十二三の女兒にも手傳はれる樣に致しますならば家事の練習も面白半分に出來ることゝ思ひます。これらの目的を達する爲には是非小さくも其家族に想應した家を借り受て自炊をする樣に致さねばなりませぬ。食物は贅澤をせず其土地に有合せの物を以てすれば東京で生活するよりお安い位で濟みます。たとへば向ふの畑へ行てお茄子やお唐茄子を買つて來たり魚類でも小アジの多い處なればそれを用つてお料理の仕方をかへさへすれば隨分厭きずに食されます。それは宿屋へ泊つて三度はお極りの御馳走にあき〲するよりよつぽど面白うございます。それで費用は往復の旅費と向ふで借受る家賃丈の用意を致しまして生活費は平生費やす丈の物で充分であります、平常の交際費が乃ち娛樂費で近傍の名所舊蹟でも見せてやつたり又子供等の爲樂しい集會でもする時に遣ひます先づ最も手輕に家族の避暑をするにはこんなものでしやうかこれより以上は各自の生活の程度によりますから御勝手でございますがたとへどんな贅澤でもお出來になる御家でも贅澤はお子樣方のお毒である事を思つて頂き度い。かねてが贅澤なお暮しに馴れておいでの方々は尙更せめては避暑一ケ月は簡易生活の趣味をおぼへる樣になすつたならば平常簡易生活を爲して居ります我々より一層お益があらうと思ひます。

計り難き人の身の上

元良よね

私方の下女が此頃緣付きましたので、今日その母親が挨拶に參りましたから、まづ滯りなく婚禮の濟んだよろこびをいひ、又いろ〲彼の身の上について話したりして、互によろこんだ事です。さうして其人が勝手口の方からかへると間もなく、玄關の方で「御免下さい」といふ聲、出で見ますと、先日永眠された友の娘御でした。まづ座敷へ招じ、互に一通りの挨拶を述べ、後は故人が存命中の事など語つて

哀悼の涙の催された事でした。私は思ひました、實に世はまち/\だ、たつた今祝を述べた此の口が今度は悔をいはなければならなかつた。尤も一日の中には大勢の人が生れたり、死んだり、又結婚したりするのだから、こんな事は別に珍しくも不思議でもなんでもない、しかし計り難きは人の身の上で、いつどんな事が起るか、さつぱり分らないと、何だか妙に眞面目なやうな自分を誡めるやうな感じがいたしました。

祈禱の力

一記者

或る人が次のやうな話をして聞かした。

やうやつと學校に上つた許りの女の兒があつた、ある日曜に其お父さんが、いつもよりか早目に家に歸つて、二階の梯子を昇りかけて、不圖娘の室を覗くと、娘は跪坐いて熱心に祈禱を捧げて居る、「おゝ神樣よ私のお父さんの上に何卒お惠みを垂れて下さい、自分の罪を悟つて、エス樣を要めまする樣に、そしてエス樣を信仰する事によつて平和に此世が送られますやうに。」父親は此祈禱を聞いてヒタと心が打たれた。父親はしな/\と立つて妻の室に出かけて、家には聖書がないかと尋れた。有つた筈ですが、おゝ、メリーが持つてゐます、取つて來ませうと、妻は聖書を持つて來て夫に渡した。が夫は、私は心持ちが變だからお前一寸讀んでみてくれと妻にかへした。妻は手當次第に中央を開いた、詩篇の五十一篇に目が止つた。「おゝ神よ、汝の愛によりてわれを惠ませ給へ」と妻がゆつくりした明亮な言葉で讀み終ると、夫はもう堪へられぬといふ姿で、何卒私の爲めに祈つて吳れないと云つた、妻は全く豫期しなかつた要求に困まつて、いや妾は小供の時から祈はした事が御座いませんからと斷つた。其處へメリーがやつて來た、「お父さんあたしが祈りませう」と跪いた。お父さんもお母さんも思はず同じやうに跪坐いた。娘の小さな然し尊い胸から兩親の救の爲めの熱き祈禱が湧き溢れた、兩親の眼からは涙が出た。神樣も、キリストも聖靈も共に此室におゐでになつたに相違ない。

何處か牧師さんの處で說教が聞きたいと父親が言ひ出した、メリーはそれではあたしの先生の處におつれ申しませうと、自分の日曜學校の先生の處に案內した。此處で神の道は明かに說き明された。斯うして一家三人は救はれて同じ教會に連る事が出來た。

メリーは今は大きな娘になつて、日曜學校の先生をして居る、兩親を救つた彼女の祈禱は多くの子供を神の道に導いてゐるに相違ない。（浮）

編輯だより

△梅雨期に入りましたけれど今日（六月二十四日）迄はさして鬱陶しいと云ふ天氣もなく、此分では此年はいやな思もせずに濟むかも知れません。然し一年中最も病氣になりやすい月と聞いて居りますから讀者諸姉も一層の御注意なさる樣に祈ります。本號には其邊の心がけにもと、小山醫學士に御願申して「夏季の衛生法」と云ふのを書いて戴きました。何卒御精讀下さる事を御願ひ申します。

△前號では若い女子の方々から家庭に對する御心持ちを御披露申しましたが、本號にはお父さんやお母さんの側の御心持ちを御紹介致しました。敢て若い方々に御精讀をおすゝめ申ばかりでなく、私共は父母の方々にもおすゝめ申したいと思ひます。

△此間題については女子大學の成瀬先生の御意見をも掲載する都合で御座いましたが、丁度御訪れ致す場所が二つ重なりまして、遂ひ先生の方に御訪れする時間がなくなり、誠に失禮な事で御座いました、先生の御諒恕を願ひます、何れ先生の御意見は來月號あたりで讀者諸姉に御紹介申す事が出來る事と思ひます。

△又此外いろ／＼御助力下さいました村田勤氏小崎令夫人及某高等女學校の先生がたに對し深く御禮を申し上げます。

△今月中旬頃には大方都が空になる事で御座いませう、久しぶりで故鄕に兩親を省し給ふ多くの女學生諸姉も御座いませうし、都の暑をさけて山紫水明の境に行かるゝ方々も御座いませう。編輯局にくすぶつて苦しい汗をしぼりながら、八月にはどんな雜誌を諸姉の御手許に差上ましようかと今から頭痛鉢卷の記者の身の上にあはれ一片の同情を擲げて下さるならば、何卒いろ／＼な御感想や御實驗を御投寄下さいまして、都に殘されたる記者の心に、一掬の涼味を與へて下さる事を御願ひ申します。

△原稿締切は毎月十五日、本社宛御送りの事。

本誌定價（一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價（壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

一行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと

●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京小石川林町四十三番地

新人社

（振替貯金口座一四〇〇五）

明治四十四年六月二十八日印刷

明治四十四年七月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地

發行兼編輯人　海老名彈正

東京市小石川區丸山町四番地

印刷人　相原一郎介

東京市小石川區林町四十三番地

發行所　新人社

東京市赤坂區田町五丁目十一番地

印刷所　審美活版所

新人第拾貳卷第七號

（七月一日發行）（定價金十五錢）

◎社説

◎神社崇敬の疑問　海老名彈正

◎教壇

◎新道德の基礎　海老名彈正

◎想苑

◎東洋意識と基督教　中村長之助

◎宗教的經驗の價值　川島金五郎

◎信仰の滴　佐藤清

◎漂泊者　みをつくし

◎文明と音樂　雨聲庵主人

◎梧窓私語　愚郎

◎雁山集　不喚樓主人

◎聖書講義

◎馬可傳　海老名彈正

◎雜俎

◎嗚デフオレスト博士　本間俊平

◎デ博士の一片影　內ケ崎騰次郎

◎研究

◎基督教の根本眞理　海老名彈正

◎時潮小觀

◎自由基督教とは何ぞや

◎トルストイの絕對主義を論ず

◎文藝小觀

◎六月の小說、評論、戯曲、飜譯

◎青年の聲

◎觸れたといふの乎　藤田快堂

◎僞りの靈を嘲る　中島志計留

◎質疑應答

◎村山氏の質問に應ふ　海老名彈正

◎時評

◎日本組合教會の朝鮮傳道に關する宣言書を讀む▲伊澤氏の小學教育費國庫補助增額祝賀會演說筆記を讀む▲文藝委員會の設立▲偶言漫語▲聯合秋季大傳道會について▲文教上の一大悲劇▲忘られたる東北傳道▲バザロフと自己否定▲教會と信仰

發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社（電話番町二五四四番　振替口座一四〇〇五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の有する最大特色也

女子手藝講義錄

普通科
高等科
一ヶ年終了

■手藝の素養なき婦人は文明の婦人たる資格を有せざる人なり

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむるは本會の講義錄也講師は斯道の大家四十名世界の技術と最新の流行と最新の考案を最新式の説明法を以て簡易に講述す

共立女子職業學校
櫻友會內手藝普及會編

會員募集

■社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ

無料進呈　入會規程　內容見本

圖解入（每號石版彩色木版數十個入）

質疑　會員の質問は最も丁寧に應答を示す

會費

科	期間	金額
普通科	一ヶ月	金參拾錢
	半ヶ年	金壹圓七拾錢
	壹ヶ年	金參圓貳拾四錢
高等科	壹ヶ月	金參拾五錢
	半ヶ年	金壹圓九拾九錢
	貳ヶ年	金參圓七拾八錢

入會申込所

東京日本橋　大倉書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、
松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、
電本 八八八番（病院用）
八九八番（私宅用）

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱、從停車場半里
電 チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

新女界

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十四年七月一日發行第參卷第七號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN